

2007年度

講義計画

桃山学院大学

画

計

義

講

科 目 名			
東洋史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

中国とその周辺を主な対象とし、その地域の歴史的特徴について考察したい。主要なトピックを次々にとりあげて分析するが、それに関連する歴史的事実については、簡潔にわかりやすく説明する。通史を暗記してもらうことが目的ではなく、今日の問題である中国やアジアを考える際のきっかけになれば幸いと思う。

【講義計画】

アジア各地の自然環境とそこに展開された歴史現象との関連、各地域の文化の成立と伝播・交流、さらには現代における重要な課題である民族問題などに力点を置いて考察してゆく。毎講時の小テストに書かれた質問に次回授業で答えることにより、双方向性の授業を展開したい。

【成績評価の方法】

毎回授業終了時に簡単な小テストを行なう。理解度と出席状況を知り、さらにはそこに書き込まれた質問に答えることで双方向の授業を展開したい。学期末には定期試験を行なう。これらを総合的に判断して成績を評価する。毎回出席して、きちんとノートをとって受講することが必要であろう。

【教科書】

指定しない。ただし、トピックごとにレジュメを配布し、理解を助ける工夫をする。

【参考文献】

松田壽男『アジアの歴史』同時代ライブラリー 岩波書店。
三田村泰助『黄土を拓いた人びと』河出文庫 河出書房新社。

科 目 名			
東洋美術史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国芸術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。

【講義計画】

1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会
2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品
3. 殷・周時代の文化と芸術
4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退
5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響
6. 南北朝時代の文化と芸術
7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響
8. 元時代の書画
9. 明時代の文化と書画
10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	久保井 規 夫

【講義概要・学習目標】

同和・人権教育を、「部落問題を基底に一切の差別を許さず解決し、人間の尊厳を守る教育」として、実践・展開できる認識・力量を培う。

【講義計画】

1. 部落差別をはじめとする生きた差別の実態
2. 差別の歴史的、社会的、個別的な要因・背景
3. 部落解放運動をはじめとする人権擁護運動
4. 法・民主主義政治と人権施策・教育
5. 同和・人権教育の進展
6. 同和・人権教育の実践
7. 人間の尊厳に光あれ

【成績評価の方法】

講義への出席状況と、課題レポート提出

【教科書】

久保井規夫「わかりやすい日本民衆と部落の歴史」明石書店(900円)

【参考文献】

久保井規夫著
「江戸時代の被差別民衆」
「近代の差別と日本民衆の歴史」
「戦争と差別と日本民衆の歴史」
「病いの文化史」
「食肉・狩猟の文化史」

【備考】

教科書については、教員に尋ねること。

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育、人権教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を具体的に報告していただく予定である。つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習・人権問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。授業の形態としては、できるだけ参加型学習を取り入れ、双方向的な授業にしたい。秋学期の後半は、受講生による模擬授業を実施する予定である。

【講義計画】

- 1 同和教育とは何か
- 2 同和教育は必要か
- 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状
- 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 6 同和教育の歴史
- 7 部落問題学習指導の実践
- 8 受講生による模擬授業の実施

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分たつてからの入室の場合、正当な理由がないかぎり出席カードを渡さない。

【成績評価の方法】

春学期に提出してもらうレポートの内容および学年末の試験の成績を基本にして出席点（毎回、出席カードに簡単な感想・意見・疑問等を書いてもらう）を加味する。また、ときどき提出してもらうノートも、評価の対象にして加点し、総合的に評価する。

【教科書】

中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』 解放出版社
講義中に、絶えず参照するので、必携のこと。

【参考文献】

稲垣有一・寺木伸明・中尾健次『部落史をどう教えるか』 解放出版社
寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』 解放出版社

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	橋 野 藏

【講義概要・学習目標】

昨年度は教育の根幹に係わる重く、厳しい事件が多発した。小・中・高校生のいじめによる相次ぐ自殺、親子間の殺人や虐待、また高校、中学校での必修科目未履修問題などなど……。これら教育諸課題解決への確かな処方箋が緊急に求められる昨今、特効薬ではないが教育基本法改訂にもメスが入れた。が、法や制度に点検が加えられても、詰まるところ指導に当たるのは現場の教師である。今後“先生”に期待されるところが益々大きくなる中で、特活授業においてこれら課題解決の糸口や接点はないものか探してみたい。

学習指導要領は、①集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。②集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を養う。③人間としての自覚を深める。——の目標を掲げている。この目標を具現化し実践していくためには、教師自身が目標の諸能力を幅広く身につける必要がある。授業を単に受け身で学習するのではなく、地域の教育施設などに赴き、地域と連携した実践活動の中で体験活動をすすめるなど、生きた学習を展開したい。

“目的があり、夢がある時人は輝いている”と言われるが、目標に向かって自主的・自発的な学習姿勢を望みます。

【講義計画】

- オリエンテーション
 - 学習計画、グループ編成など
- 学習指導要領による「特活」の位置づけ
- 学校現場における「特活」の実践
 - 学級活動 ・生徒会活動 ・学校行事 他
- 今日的課題と特活
 - 不登校 ・学級崩壊 ・校内暴力 他
- 現地体験学習
 - 幼稚園、小・中学校との交流・体験学習
- 班別プレゼンテーション
- 評価・まとめ

【成績評価の方法】

出席状況、授業内での発表やVS活動、期末レポートの結果など総合して行う。但し、2/3以上の出席がない時は評価しない。

【教科書】

プリントなどにより、必要に応じて配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。さらに少子化、核家族化が進むなかで、集団活動や人間関係をつくることが不得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

- はじめに一講義計画など
- 戦前の特別活動
- 指導要領における特別活動の目標と内容
- 学級（ホームルーム）活動の実際とその基本的視点
- 生徒会活動の実際とその基本的視点
- 学校行事の実際とその基本的視点
- 必修クラブの廃止と部活動の意義
- ボランティア活動の意味と意義
- まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

科 目 名			
都市政策論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 本 誠

【講義概要・学習目標】

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらした。都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、21世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

【講義計画】

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。

1. 都市公害と住民運動
2. 革新自治体と都市政策
3. 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味
4. 戦後の市民・住民運動の系譜と展開
5. 住民主体のまちづくりの試行
6. 地方分権と住民自治
7. 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ
8. 参画・協働と新しい地方自治の模索

【成績評価の方法】

期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも適宜アンケートやレポート等によって評価を補足する。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

その都度、指示する。

科 目 名			
図書及び図書館の歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	垣 口 弥生子

【講義概要・学習目標】

多様な形態をとる図書の歴史を、世界史的規模で概観し、それを収集・整理・保存してきた図書館の歴史を考察する。そうして、とりわけ図書館が多数の市民に開放されていく近代図書館の発達過程を思想的、制度的に検証する。

【講義計画】

1. 文字そして記録の誕生
2. 書物の歴史
3. 印刷の歴史
4. 古代の図書館
5. 中世の図書館
6. 近世の図書館
7. 近代図書館の成立
8. 近代公共図書館の誕生と発達（1）アメリカ
9. 近代公共図書館の誕生と発達（2）日本
10. いま、図書館の可能性とは

【成績評価の方法】

レポートの提出と期末試験（筆記）の成績で評価する。出席状況も加味。

【教科書】

プリントを配布。

【参考文献】

『図書館の話』森耕一著 至誠堂

『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会

科 目 名			
図書館経営論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館の経営について学ぶ。図書館の経営とはどういうことであろうか。
それぞれの図書館は、他の図書館と比べると何らかの違いを有する。資料に着目した場合、蔵書量の豊かな図書館があり、あるいは幅広く雑誌・新聞を集めている図書館場ある。図書館活動に着目すると、資料貸出し量重点の図書館が多いが、他方にレファレンス、集会など施設を拠点として活動する図書館がある。施設面に着目すると、大きな本館を築き活動する図書館がある一方、分館の設置や移動図書館に力を入れる図書館がある。専門の司書をそろえた図書館がある一方、人材派遣に頼る図書館もある。それらは公共図書館を土台にした例であるが、大学、学校図書館の事情は随分ことなる。また多様である。

このような、図書館ごとの特徴は多分に伝統など過去に起因している。だがそれならば、近未来の各種図書館像の如何は現在の図書館経営者の策・実行にかかるという事になる。各館はサービス計画を立て、実行に移す。その間は経費（人手、資料等）の予算が必要となる。最後に活動の効果測定、計画の評価をし、次の施策に入る。図書館経営論ではこうしたことについて考える。

【講義計画】

- 1 「図書館経営論」ガイダンス（講義計画説明）
- 2 「図書館経営論」の位置付け（図書館法施行規則における）
- 3 「図書館経営」の意味、意義・必要性
- 4 図書館経営の沿革
- 5 図書館経営の原則
- 6 第1次経営と第2次経営
- 7 図書館サービス計画と経営計画
- 8 図書館の経営管理組織
- 9 館種別考察
- 10 図書館経営の諸形態；NPO、PFIなどと委託
- 11 図書館活動及び図書館経営の評価
- 12 パフォーマンス指数
- 13 図書館経営のファースリーディング
- 14 まとめ
- 15 テスト

【成績評価の方法】

- テスト 70%
課題 20%
その他 10%

【教科書】

プリント他

【参考文献】

高山正也[ほか]『図書館経営論』改訂 樹村房 2004 ￥2000

科 目 名			
図書館サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	2単位	山 本 順 一

【講義概要・学習目標】

デジタル・ネットワーク時代の‘ハイブリッド・ライブラリー’と呼ばれる図書館と図書館サービスについて一緒に考えることにしたい。伝統的な紙媒体資料を主体とする図書館の図書館サービスは、資料選択、分類・目録などのテクニカル・サービスを基礎として、閲覧（視聴を含む）、貸出、レファレンスサービスや図書館イベント、PRなどのパブリック・サービスを展開してきた。現在では、資料提供というよりもインターネット情報資源をも対象する‘情報へのアクセス’の提供を図書館サービスの中核としている。サイバースペースにおける‘図書館ポータル’の構築が急務となっている。‘新たな図書館サービス’イメージの獲得がこの科目の目的である。

【講義計画】

- 1) はじめに
- 2) 図書館の役割と目的
- 3) 地域社会と図書館
- 4) 図書館と法制度
- 5) 図書館と財政
- 6) ‘図書館利用者’概念の検討
- 7) 各利用者層に対する図書館サービス
- 8) 図書館ネットワーク
- 9) 図書館の環境整備
- 10) 資料コレクションの構築
- 11) 図書館とデジタル・コンテンツ
- 12) 図書館サービスを支える人的資源
- 13) 図書館と情報ポリシー
- 14) 図書館の管理運営とマーケティング
- 15) むすび

【成績評価の方法】

ペーパーテストの結果を重視するが、受講時のレスポンスを考慮する。

【教科書】

国際図書館連盟公共図書館分科会ワーキング・グループ編『理想の公共図書館サービスのために』日本図書館協会、2003

【参考文献】

講義のときに随時紹介する。

科 目 名			
図書館資料論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館を構成する要素のうち、もっとも特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。

【講義計画】

1. 図書館資料論
2. 図書館資料の種類
3. 資料の生産と流通
4. 資料の選択
5. 資料選択論
6. 図書館の自由
7. 電子資料、電子情報
8. ネットワーク
9. インターネット
10. 著作権
11. 公共貸与権
12. まとめ

【成績評価の方法】

テスト 80%
課題 20%

【教科書】

志保田務・山本順一監修著『資料・メディア総論－図書館資料論・専門誌両論・資料特論の統合化』（学芸図書）2001

科 目 名			
図書館通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館、図書館情報学のおおよそについて平説する。まず、図書館は何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）、入館者→利用者→ステークホルダーの4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追求の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界に将来等について検討する。

【講義計画】

- 1 図書館とはなにか
- 2 図書館の果たす役割
- 3 情報の伝達と図書館
- 4 社会、生涯学習と図書館
- 5 図書館の構成要素
- 6 図書館の種類（館種）
- 7 公共図書館：概念
- 8 公共図書館の歴史と現代
- 9 公共図書館の利用者
- 10 図書館の自由
- 11 図書館経営
- 12 図書館と情報化
- 13 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 80%
その他 20%

【教科書】

『図書館概論』改訂版 志保田務[ほか]著 樹村房 2005 1800円

【参考文献】

本学図書館指定図書コーナーあり。

科 目 名			
図書館特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代図書館の諸問題について考察する。問題点の大枠は、図書館情報学の基礎、その情報化、国際化ということである。特に、「情報」に重点をおく。そうしたなかで、サーチャーに光をあてたい。

【講義計画】

インテグレーション授業。計画は仮案であり、少々変更見込み。コンピュータ実習室をおおむね使用する。

- 1 図書館情報学の課題
- 2 図書館と図書館情報学
- 3 図書館と情報技術
- 4 図書館と資料・情報
- 5 図書館利用教育
- 6 図書館施設
- 7 図書館とOPAC
- 8 図書館と情報
- 9 図書館と英語
- 10 インターネットと英語
- 11 図書館とデータベース利用
- 12 図書館とネットワーク
- 13 図書館と著作権
- 14 図書館情報学の将来
- 15 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 60%
課題 30%
出席 10%

【教科書】

特に指定はしない。プリントその他による。

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
日中ビジネス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

本講義は、日本を代表する金融機関の一つである三菱東京UFJ銀行からの講師派遣によるインテグレーション講座である。「金融機関からみる日中ビジネス」をテーマとし、日本と中国それぞれのビジネス事情について、金融業界との関連も含めて解説していただく。

講義は、大きく以下の内容からなる。第一に、銀行・証券・クレジットなどの金融関連業務、およびそれらのくらしとの関わりについて。第二に、日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係、および中国ビジネスの実態について。第三に、企業と公共部門のマネジメントについて。

本講義の講師陣は、金融あるいは中国ビジネスに関わっている現役実務家である。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く金融業界に関心のある学生にも興味を持てる内容となる。

【講義計画】

以下のような内容を予定している。
ただし、講師その他諸般の事情により変更されることがある。秋学期開始前に掲示等で確認のこと。

1. 企業人としての心構え
2. 日本経済と中国経済
3. ライフステージと金融機関の関わり
4. 中国の現状～もしあなたが中国に駐在したら～
5. 経営ビジョンの事例研究
6. 証券業務の現状
7. 勝ち残る企業の条件
8. 経済社会の構造変化と私たちのくらし
9. 公共経営（パブリックマネジメント）と中国
10. 「クレジットカード」の仕組み
11. 中国ビジネスの実態
12. 激動する金融界の現状

【成績評価の方法】

レポートと期末試験により評価する予定である。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
日中関係論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	副 島 昭 一

【講義概要・学習目標】

これからの日本を考えると、日中関係は非常に重要な意味を持っているが、必ずしも相互の理解が十分とはいえない状況がある。日中関係の現在を知るには過去からの流れの中で位置づける必要がある。過去の歴史の問題も決して過ぎ去った問題ではなく、歴史の問題が現在の大きな問題になることがしばしば見られる。この講義では20世紀前半から現在までの日中関係を理解することを目標にする。

【講義計画】

日本の近代と中国
日中戦争の原因と経過、中国の国民国家形成
中華人民共和国成立から国交は正常化まで
改革開放期の日中関係、日中経済関係の深まりと政治的軋轢賠償、戦争責任などの問題
授業の中ではテーマに関わる映画なども取り入れる予定。

【成績評価の方法】

出席状況、授業中の発言、レポート、テストなどで総合的に評価する。

【教科書】

池田・安井・副島・西村編『図説中国近現代史』（法律文化社、二七〇〇円＋税）

【参考文献】

毛里和子『日中関係』（岩波新書、740円＋税）
藤井省三『中国見聞一五〇年』（NHK出版、680円＋税）
天児慧『中国・アジア・日本』（ちくま新書、700円＋税）

科 目 名			
日本近代史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	佐々木 和 子

【講義概要・学習目標】

日本の近代と戦争がテーマである。

明治から戦前昭和期の日本は、徴兵制による軍隊をもち、戦争に戦争を重ねていった。男子は17歳から40歳まで兵役の義務を負い、人生の多くが国家のコントロールの下におかれた。さらに第一次世界大戦を経て、戦争は総力戦の時代に入り、人々の生活そのものが戦争に大きくまきこまれていくようになる。本講義では、前半は徴兵制をとりあげる。徴兵制の制定から日清・日露戦争という対外戦争を戦う軍隊への変遷、さらには15年戦争期の兵役法を概観する。また後半は、アジア太平洋戦争末期におこなわれた日本本土への爆撃をとりあげ、20世紀の戦争である総力戦の実態について考察をおこなう。

【講義計画】

前期
（１）徴兵制の制定
（２）日清・日露戦争と徴兵制
（３）総力戦と軍隊
（４）15年戦争期の兵役法
（５）アジア太平洋戦争末期の兵役法

後期

（１）戦略爆撃の思想
（２）日中戦争と爆撃
（３）日本本土爆撃の概要
（４）大阪湾岸地域への爆撃
（５）爆撃の記憶

【成績評価の方法】

定期試験（筆記）の成績と平常成績で総合評価する。

【教科書】

特になし。適宜参考史料を配布する。

【参考文献】

小山仁示 『大阪大空襲』 東方出版
『昭和の歴史』 3・4・5・7 巻 小学館

科 目 名			
日本経営論研究A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバル化の急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。またそれに伴い日本企業はグローバル化への戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本研究では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバル化を視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

【講義計画】

オリエンテーション

経営戦略

異文化経営戦略

マーケティング戦略

財務戦略

総括

(以上の計画は多少変更する場合がある)

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【教科書】

必要に応じ担当講師が指示

【参考文献】

必要に応じ各講師が指示

【備考】

インテグレーション科目

04B生対象

科 目 名			
日本経営論研究B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバル化の急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。またそれに伴い日本企業はグローバル化への戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本研究では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバル化を視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

【講義計画】

オリエンテーション

人事労務戦略

生産戦略

資材調達戦略

情報戦略

競合国企業の経営戦略

総括

(以上の計画は多少変更する場合がある)

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【教科書】

必要に応じ担当講師が指示

【参考文献】

必要に応じ担当講師が指示

【備考】

インテグレーション科目

04B生対象

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 田 雄 久

【講義概要・学習目標】

本講義では、近世～近代における日本経済の成長史について論じます。徳川期には全国的な農業の発展とともに、商工業が都市部を中心として展開し、農村部でも在郷町などを拠点に商工業が発達を遂げました。決して徳川経済は農業のみにとどまっていたとはいえないことがわかります。農村部を中心にさまざまな特産物が誕生し、本格的工業化の準備を着々と進めていた事実が注目されます。明治期以降、農村を中心に発達した商工業を軸に、日本の工業化を推進した在来産業が技術革新を遂げ、次第に近代的産業へと転換していきました。本講義ではこのような視点から、近代産業の発展とともに、日本経済の基礎を築いた在来的な経済発展について考察していきます。

【講義計画】

- 1 近世日本の市場経済
- 2 人口史・物価史
- 3 商業発展と貨幣・金融
- 4 幕末の経済発展
- 5 明治維新と財政・金融
- 6 企業勃興
- 7 日清・日露戦後経営
- 8 国際貿易と金融

【成績評価の方法】

学年末試験の成績で評価します。

【教科書】

とくになし。

【参考文献】

西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社、1985年
新保博『近代日本経済史』創文社、1995年
阿部武司『近代大阪経済史』大阪大学出版会、2006年

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	梅 本 哲 世

【講義概要・学習目標】

グローバル化が急速に進展するなかで、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

【講義計画】

1. 経済史の基本概念
2. 幕末の経済と開港
3. 明治維新
4. 殖産興業と松方財政
5. 近代産業の発達－軽工業
6. 近代産業の発達－重工業
7. 日清・日露戦争と日本経済
8. 第1次世界大戦と日本経済
9. 1920年代
10. 昭和恐慌
11. 高橋財政
12. 戦時経済

【成績評価の方法】

学期末試験の成績により評価する。

講義の区切りに感想を書いてもらい、授業改善と成績評価の参考とする。

【教科書】

三和良一『概説日本経済史 近現代〔第2版〕』（東京大学出版会）

【参考文献】

石井寛治『日本経済史〔第2版〕』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
日本経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	鈴 木 健

【講義概要・学習目標】

戦後の日本経済は、政治（外交）＝軍事上の対米従属を至上命題とする、いわゆる政官財癒着の統治枠組みのもとで、国家が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積を支える経済システムとして再建・確立され、機能してきた。ところが、いまそれが内外に累積する諸矛盾によって機能不全に陥っている。日本経済の根幹をなす大企業＝大銀行システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。本講義の目標は、こうした行き詰まりに直面する日本経済の現状を理解するのに必要な最低限の基礎的知識について講義し、理解してもらうことにある。

【講義計画】

第1週	ガイダンス、第1章	第11週	第6章
第2週	第1章	第12週	第6章
第3週	第2章	第13週	第6章
第4週	第3章		
第5週	第3章		
第6週	第4章		
第7週	第4章		
第8週	第5章		
第9週	第5章		
第10週	第5章		

【成績評価の方法】

学期中に行うテスト（10回）の受験回数（6回以上）と点数（6割以上）を勘案して評価する。

【教科書】

大概久志『やさしい日本経済の話』（新日本出版社、2003年）

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけて嫌でも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、大学生活に慣れたり、専門の科目の勉強などに忙しかったりで、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。特に、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、周りの学生や授業で先生たちが使う日本語との差に驚くことになると思う。

この授業では、『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）という聞き取り教材を使って、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をし、日本人の自然な日本語に慣れる練習をする。

これは、聞き取り用にわざわざシナリオを作ったものではなく、日本人にインタビューしたものをそのまま録音した「生」の日本語である。

予習も復習も要らないので、とにかく授業にはまじめに取り組んでほしい。

【講義計画】

<聴解練習>

- （1）インタビューのテープを聞く。
 - ・会話の大意をつかむ。
 - ・シートの問いに従い、聞き直す。
 - ・設問に答える。
 - ・ストラテジーなどについて考える。
 - ・スクリプトを見ながら再度聞く。
- （2）会話の内容について話し合う。
 - ・タスクシートの設問を利用する。

【成績評価の方法】

評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。ただし、試験を受けるための条件として、その試験までの授業回数の3分の2以上を必要とする。また、「授業中の携帯電話（見る、音が鳴る）」、「授業中の私語」、「忘れ物」は、大きく減点する。詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

（コピーを配布する。）

【参考文献】

堀歌子・三井豊子・森松映子（共著）『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	串 田 真知子

【講義概要・学習目標】

大学生活で必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」ことを中心に、日本語で考え、その考えを日本語で「話す」「書く」ことにより表現することを学習の目的としている。具体的な学習内容としては、「書く」学習では、レポートなどの文章を書くために必要な表現・文法・文構成や日本語作文の基礎的知識を学び、「話す」学習では、スピーチ・ディスカッションなどを通して自分の考えを伝えるために必要な表現や質疑応答の方法について学ぶ。

【講義計画】

- ① 日本語作文の基礎的知識
 - ② レポートの語彙・文型・表現の学習
 - ③ 新聞作成
 - ④ スピーチの方法
 - ⑤ ディスカッションの方法
 - ⑥ カタカナ語
- 毎回、課題を課し、語彙テストも行う。

【成績評価の方法】

試験50%、平常点20%、提出物20%、語彙テスト10%で総合評価する。欠席・遅刻・早退は減点とする。

【教科書】

『国境を越えて』山本富美子 新曜社
『よく使うカタカナ語』小田知子 アルク

【参考文献】

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』佐々木瑞枝他
ジャパントイムズ
『日本語の表現技術 読解と作文（上級）』倉八順子著 古今書店
『留学生のための論理的な文章の書き方（改訂版）』二通信子・佐藤不二子著 スリーエーネットワーク

【備考】

- ・遅刻・早退は3回で欠席1回とする。
- ・2／3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。
- ・携帯電話の使用は禁止。

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	春学期集中 秋学期集中	2単位 2単位	清 水 明 子

【講義概要・学習目標】

日本語の基本的な文法を習得後、さらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。

【講義計画】

学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【教科書】

初回授業でプレースメントテストを行うなど、学生のレベルを把握した上で決定する。

【参考文献】

なし

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	吉 岡 美 穂

【講義概要・学習目標】

日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。このクラスでは、新聞、ニュースなどの情報を通して、今日の日本で起きている様々な出来事を自分達の文化と比較しながら異文化理解を深める授業を目的とする。

【講義計画】

読解を中心に行い、内容を文章で要約する練習を行う。異文化に関する記事や文献を新聞、雑誌、小説から抜粋し、理解しながら、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。

【成績評価の方法】

出席、前・後期試験、宿題、小テストによって評価する。

【教科書】

資料は教員が用意する。図書館にある参考文献についても授業で紹介する。辞書を必ず持参すること。

【参考文献】

異文化コミュニケーション入門 池田理知子（有斐閣アルマ）

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	清 水 明 子

【講義概要・学習目標】

留学生の大学生活で必要とされる日本語能力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。

「読む」ことの学習では、専門分野のレポート、論文、専門書などの専門的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。具体的には文章構造・文章の論理構造・文法に関する知識を学び、段落読み・情報検索・アウトライン作成などの読解スキルを身につける。

「聞く」ことの学習では、講義を聞き取る力を養成することに重点を置くが、ニュースや一般的な会話の聞き取りも含めて、実践的・総合的な聴解力を養成する。

【講義計画】

＜読解＞

前期は教科書を中心とした講義形式で基礎的な読解技術を学ぶ。後期は前期に学んだことの演習として発表形式で行う予定。

＜聴解＞

前期・後期ともにレベルに応じた教材を使用して聴解力をつけていく。また、状況に応じてニュースなどの生教材も使用していく予定。

【成績評価の方法】

平常点（出席回数、小テスト）、発表、前・後期の期末試験によって評価する。

【教科書】

『大学・大学院留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 アルク

【参考文献】

『上級の力をつける聴解ストラテジー上・下』 川口さち子他 凡人社

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	春学期集中 秋学期集中	2単位 2単位	三 木 由里子

【講義概要・学習目標】

日本語の基本的な文法を習得後、さらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに運用力をつける。

【講義計画】

学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【教科書】

初回授業でプレースメントテストを行うなど、学生のレベルを把握したうえで決定する。

【参考文献】

なし。

科 目 名			
日本語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

大学に入って、1年以上経ち、まず何より留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は思ったように伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。特に、1年間大学生として生活してきて、それまでの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、大学の授業で使われる日本語の語彙や文体の差に驚いたことと思う。

この授業では、『はじめての専門書』（凡人社）というテキストを使って、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、言語学・社会学・統計学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。

なお、今年度は昨年度の続きの「第9課」から始めるが、テキストの構成が若干変わる。「第8課」まであった助詞相当語がなくなり、本文の内容が高度になり、複雑な文・文章を読み解いていくのが中心となる目標となる。

特に予習は要らないが、復習はしっかりしてほしい。

【講義計画】

＜読解（精読）練習＞

- (1) 各専門分野の文章を読む。
 - ・語彙や文型を考える。
 - ・内容の把握をする。
 - ・シートの設問に答える。
- (2) 課によっては要約をする。

【成績評価の方法】

評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。
ただし、試験を受けるための条件として、その試験までの授業回数の3分の2以上を必要とする。
また、「授業中の携帯電話（見る、音が鳴る）」、「授業中の私語」、「忘れ物」は、大きく減点する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

（コピーを配布する。）

【参考文献】

山本一枝・田山のり子・坂本恵（共著）『はじめての専門書』（凡人社）

科 目 名			
日本語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	串 田 真知子

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉学・研究に不可欠な論理的思考に基づいた表現能力、特に「書く」「話す」能力の養成を目指している。具体的には日本語によるレポート・論文の基本的書き方の学習、ゼミでの研究発表に備えたプレゼンテーションの方法（発表原稿を書き、口頭発表を行う）の学習、話す能力を高めるためディスカッション・ディベートの学習などを行う。

【講義計画】

- ① レポート・論文の基本的書き方
 - ② レポート・論文の語彙・文型・表現の学習
 - ③ 論文の各構成要素と論理的展開パターンの学習
 - ④ 図表の提示・引用・要約の方法
 - ⑤ アンケート調査・集計
 - ⑥ プレゼンテーションの方法
 - ⑦ 発表原稿
 - ⑧ ディベートの方法
- 毎回、課題を課し、語彙テストも行う。

【成績評価の方法】

期末試験50%、平常点20%、提出物20%、語彙テスト10%で総合評価する。欠席・遅刻・早退は減点とする。

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語④論文作成編／アカデミック・ジャーナリズム研究会編著／アルク

【参考文献】

- 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他 くろしお出版
『知へのステップ 大学生からのスタディスキルズ』学習技術研究会編著 くろしお出版
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』大島弥生他 ひつじ書房

【備考】

- ・遅刻・早退は3回で欠席1回とする。
- ・2/3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。
- ・携帯電話の使用は禁止。

科 目 名			
日本語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	吉 岡 美 穂

【講義概要・学習目標】

(1) 自文化と異文化の関係について考える。自己を知らずして他者を理解できないのと同様、自文化に対する十分な理解なしには異文化を理解することはできない。異文化理解とは「自己への気づき」から始まるということをこの授業で学ぶ。

(2) 異文化コミュニケーション能力の育成：ディスカッションを通して、他者の意見を尊重し、異なる視点から物事を見る能力を養う。

【講義計画】

このクラスでは講義とエクササイズ、ビデオ、各自の体験などを参考にしながらディスカッション形式を用いる。そのためには皆さんの積極的な参加が必要である。

【成績評価の方法】

授業参加と出席、前期・後期テスト、レポート

【教科書】

テキストは使用せず、教員が用意する。辞書を必ず持参すること。

【参考文献】

- ・「異文化コミュニケーション・新国際人への条件」古田暁（有斐閣選書）

科 目 名			
日本語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	清 水 明 子

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉学・研究に必要な日本語力のうち、特に「読む」「聞く」能力の養成・強化を目指す。

「読む」ことの学習では、読解のストラテジーを学ぶことにより、各自の専門分野の文章を独力で読んでいくための実践的な読解技術を身につける。「聞く」ことの学習では、予測して聞くことに重点を置き、予測の契機となる文法表現について学ぶ。さまざまなテーマの内容をさまざまなスタイルの話し言葉で聞くことにより、聞いて理解できる内容の幅を広げる。

【講義計画】

<読解>

前期は教科書中心の講義形式で読解のストラテジーを学ぶ。後期は前期に学んだことの演習として発表形式で行う。

<聴解>

『予測して読む聴読解』（参考文献参照）のCDを使用して、予測の契機となる文法表現や話題の背景知識について学ぶ。状況に応じてビデオを使いニュースなどの生教材も使用していく予定。

【成績評価の方法】

平常点（出席回数、小テスト）、発表、前・後期の期末試験によって評価する。

【教科書】

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク

【参考文献】

『予測して読む聴読解—現代日本事情に関する38章』佐々木瑞枝 監修 アルク

科 目 名			
日本語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけた「な」は発音できないの？「大型」は「おおがた」。なのに「大風」は「おおがぜ」とは言わない。何故？「病気の人」とは言うけど、「元気の人」とは言わないのは何故？「きれいです」は「きれいだ」とも言えるけど、「うつくしいです」は「うつくしいだ」と言えないのは何故？「猫が金魚が食べた」は変だけど、何故、変だと感じるの？この時、頭の中は何がどうなっているの？

日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使える。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことだ。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできない。（誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象となる。

日本語を三つの視点から概論する。（1）生物言語学の視点＝自然言語は、自然が創造した脳の突然変異と創発的自己組織化によって出現したが、その一般的性質とは何か？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明とは何か？（3）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をし、老い、死んでいくのか？（大学とお寺でしか言われないので我満して考えて下さい。）

【講義計画】

- （1）ことばを科学する、こころを科学する。
- （2）音の問題。音素、連濁、活用変化など。
- （3）単文の構造と意味の問題。

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

有川康二（2005）『日本語学と生物言語学の対話』（教科書用自費出版）
（その他、追加プリントを使用する。）

【参考文献】

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
畠山雄二（2003）『情報科学のための自然言語学入門—ことばで探る脳のしくみ』丸善
野村奉幸（2005）『プラトンと考えることばの獲得—成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

【備考】

<02～07生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
日本語教授法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。

一定の制限された状況（教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。

【講義計画】

指示表現（コソアド）

形容詞

存在表現

時制（テンス）と相（アスペクト）

保留形（テ系）

願望の助動詞ta/gar

可能の助動詞e/（ra）re

様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ

テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル・開ケテアル・窓ヲ開ケテオク）

授受表現（ヤル・アゲル・モラウ等）

態（受身・使役・使役受身）

条件表現（雨ガ降ッたら〜・降ルナラ〜・降レバ〜・降ルト〜）

敬語（オ読ミニナル・オ読ミスル・ナサル・イタス）

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

東京YMCA日本語学校（編）（1992）『入門日本語教授法』創拓社

【参考文献】

三浦昭（1983）『初級ドリルの作り方』凡人社

岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M.（1986）A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典, The Japan Times.

【備考】

<02～06生>

E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
日本語教授法Ⅱ〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。

本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。

【講義計画】

- ・日本語を教えるということ
- ・初級の教え方（発音／会話）
- ・初級の教え方（文字／読解）
- ・中上級の教え方（会話／聴解）
- ・中上級の教え方（読解／情報収集）
- ・評価と試験
- ・いろいろな外国語教授法

【成績評価の方法】

学期の中間期と学期末に試験を行います。それ以外にも授業での発言、グループ発表、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は最重要視されます。

【教科書】

『はじめての日本語教育 2ー日本語教授法入門』（高見澤孟、アスク、1996）

【参考文献】

- ・『はじめての日本語教育 1ー日本語教育の基礎知識』（高見澤孟他、アスク、1996）
- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房、2005）
- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 下』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房）
- ・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
- ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
- ・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）

科 目 名			
日本語教授法Ⅲ〔４〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

- ・本講では、日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を統合して、効果的な教育を行うための実践力の養成を目的とします。
- ・知識として獲得したことをいかに分かりやすく提示し、学習者の持つ多様なニーズや問題に適切に対応するかを実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として教授法関連の基本的な科目である日本語教授法Ⅰと日本語教授法Ⅱをすでに履修済みの学生のみの受講を認めます。

【講義計画】

- ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見て比較検討します。
- ・模擬授業の準備段階として、基本的な教授項目をどのように導入するか、またそのための教案をどのように作成するかを考えます。
- ・グループ単位（4～5名）で実際の授業を組み立て、模擬授業（1回20分程度を異なる教授法に基づいて2回）として発表します。
- ・実際の日本語授業（学内）を見学し、レポートを作成したり、夏期・春期休暇中に学外機関（日本国内および海外の提携大学）での教育実習に参加します（希望者のみ）。

【成績評価の方法】

- ・ノートに毎回の授業をまとめ、指定された課題もそこに記入し、それを適宜提出することで出席状況と授業の理解度を確認します。
- ・グループ単位で行う模擬授業は学生間の相互評価を行います（各人が評価表に記入し、コメントはすべてフィードバックします）。
- ・日本語教師資格関連の最終段階の授業なので、基本的には全回出席が求められます。

【教科書】

実習形態の授業なので、指定する教科書はありません。使用する資料については必要に応じて教員が準備、配布します。

【参考文献】

- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』（川口義一&横溝紳一郎 ひつじ書房、2005）
- ・『コミュニケーションのための日本語教育文法』（野田尚史編、くろしお出版、2005）
- ・『よくわかる教授法』（小林ミナ、アルク、1998）
- ・『日本語教授法を理解する本一実践編』（三牧陽子、バベルプレス、1996）
- ・『教え方の基本』（丸山敬介 京都日本語学校、1995）
- ・『日本語教育論集』（吉田弥寿夫編、学習研究社、1991）
- ・『実践日本語教授法』（名柄迪監修 中西家栄子他 バベルプレス、1991）
- ・『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク、1989）

科 目 名			
日本語文法論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

本講義は、日本語学概論（春学期集中）と内容的に継続する。ヒト脳の自然言語計算システムという複雑系で処理される3つの素性（音素性、意味素性、構造素性）のうち、構造素性と意味素性に焦点をあてて、単文、複文の構造と意味について考える。日本語の母語話者の文の容認可能性反応を使用し（思考実験）、自然言語計算システムに関する仮説の構築と検証（それに伴う仮説の修正、破棄）を行う。自然が創造したヒト脳の計算システムの法則（自然法則）やメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義は、内容的に関連するので、出来る限り、受講、聴講、自習していることが望ましい。

【講義計画】

- （１）単文の構造と意味の問題。
- （２）複文の構造と意味の問題。

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

有川康二（2005）『日本語学と生物言語学の対話』（教科書用自費出版）

【参考文献】

- ・島山雄二（2004）『情報科学のための理論言語学入門－脳内文法のしくみを探る』丸善
- ・野村奉幸（2005）『プラトンと考えることばの獲得－成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

【備考】

<02～06生>

E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
日本史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	布 引 敏 雄

【講義概要・学習目標】

歴史を見る目を養うことを主目的とする。はじめは、歴史研究の方法や様々な歴史観を取り上げて概説し、続いて具体的な事例へと展開する予定である。とくに日本人として日本の歴史を学び、日本の文化や伝統についての知識を持つことは当然であるから、それらに関する事例を多く取り上げたい。

【講義計画】

- 第1講～第5講
歴史学とは何か
——様々な歴史観・歴史学研究の方法
- 第6講～第15講
具体的展開事例（前近代）
たとえば、茶道の歴史、中世文芸の世界、戦国時代の和泉国、戦国大名毛利氏の権力基盤、豊臣秀吉の朝鮮出兵、等々を適宜、講義する。
- 第16講～第30講
具体的展開事例（明治維新～近代）
たとえば、吉田松陰の人間像、新選組の実像、高杉晋作と奇兵隊、観光都市宝塚の形成過程、流行歌と昭和の世相、等々を適宜、講義する。

【成績評価の方法】

定期試験および出席点により評価する。

【教科書】

使用しない。毎時間プリントを配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
日本史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

本講義は、教職科目として開講されたものを共通自由科目としても履修できるようにしたものである。したがって、日本史学習の目的、日本史学習指導のための基礎知識、指導方法などについて教授することになる。いわゆる一般的な日本史の講義ではないので、教職志望者以外の学生は、その点を十分に承知したうえで、履修されたい。上記のことを講義しつつ、各時代ごとに、いくつかの柱を立てて重点的に述べていくことになる。その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠れてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知ることではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解することである。なお、適宜、史料を印刷して配布し、その読解をしていくことになるので、日本史に強い関心と勉学意欲をもち、努力しないと理解は困難になる。また、日本史全体を扱うが、私が近世史専攻ということもあり、前近代史に比重をおいて展開することになるので、この点も十分承知されたい。

【講義計画】

- 日本史学習の目的
- 日本史の見方と指導方法および留意点
- 人類と日本人の起源
- 縄文・弥生時代の社会と文化
- 古代社会と身分制度およびケガレ概念
- 中世社会と差別民の文化
- 近世社会と身分制度および被差別民の生活
- 近現代への展望
- 日本史学習指導の課題

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分以上の遅刻者には、正当な理由がないかぎり出席カードを配布しない。

【成績評価の方法】

毎回、出席をとり、出席カードに講義の感想・意見・疑問を書いて提出してもらう。学期末に実施する試験の成績を基本に出席点を加味して総合的に評価する。

【教科書】

適宜、史料を配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

科 目 名			
日本事情 [外国人留学生用]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもっとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を拓けるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。

【講義計画】

その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを看ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、自分の意見をレポートにまとめて発表をします。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。

【成績評価の方法】

出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組で知った新出の語彙についての小テスト、課題レポートの内容、発表の出来、不出来、ディスカッションの際の参加姿勢などを総合的に判断します。

【教科書】

特に指定する教科書はありません。必要な資料は教員が用意します。

【参考文献】

特にありません。テーマに応じて参考になる文献を紹介する予定です。

科 目 名			
日本文化研究—交流史からみた伝統と芸術			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	片 平 幸

【講義概要・学習目標】

本講義では、日本の造形芸術と伝統文化が、明治期以降、西欧においてどのように受容されたのか、そして西欧におけるそれらの理解について、日本はどのように対応したのかを多面的な資料を用いて考察していく。交流史的な観点から、日本の造形芸術や伝統文化の独自性の規定や価値の創出がなされていく過程を分析していく。具体的には、明治期以降、日本の庭や茶の湯が、日本という国境を越え、そこでどのような価値や概念が創出されていったのかについて考えていきたい。最終的には、明治以降に西欧から注がれた日本への眼差しと、その視線への日本側の応答の作用と構造を、文化史の文脈に照らし合わせ、相対的な日本文化の理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

1. 日本文化論を学ぶにあたって
日本論の交流史
2. 西欧からの眼差し～19世紀末から20世紀初頭の西欧における「日本」表象
3. 欧米における日本論の系譜
4. 日本人による日本像の提示～岡倉天心を中心に
越境する伝統と芸術
5. 日本庭園史概論
6. 欧米における日本庭園論の変遷
7. 茶の湯の文化史
8. 日本近代における日本独自の芸術性の規定

【成績評価の方法】

出席・授業態度30%、講義中の小テスト20%、期末テスト50%

【教科書】

適宜、資料を配付する。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

科 目 名			
日本文化研究－柳田国男を再読する			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それと付き合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先での見聞かあら、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照連寺が勢威をふるった真宗王国であった。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。合わせて、柳田のさまざまな方面での業績を通して、その思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

【講義計画】

- 1、『秋風帖』を読む
- 2、『越前美濃紀行』を読む
- 3、『山の人生』を読む
- 4、「新四郎さの告白」
- 5、『毛坊主考』
- 6、一向一揆および真宗の発展について
- 7、飛騨というところ
- 8、飛騨の真宗
- 9、ネブタ考
- 10、人柱について

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【教科書】

なし

【参考文献】

『柳田国男全集』（ちくま文庫）

科 目 名			
日本文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

桃山学院の近くの久保惣美術館には重要文化財の『伊勢物語絵巻』がある。その『伊勢物語』の中で高らかに称えられる「みやび」の美意識は「ひなび」との対比の上で成り立った美意識である。端的に言えば、それは都風の恋愛作法を意味するが、それが洗練されて『源氏物語』の「もののあはれ」となり、さらに深まり、爛熟して行き場のなくなって退廃していく姿を『問はずがたり』の中に見ていきたい。隣の朝鮮王朝にも宮廷文学はあったが、それは恋愛あるいは姦通を扱わない。主題は党争であり、「恨（ハン）」の世界が繰り上げられる。朝鮮の宮廷物語や野譚をも紹介しながら、日本の恋愛の文化史的な意義を考えてみたい。

【講義計画】

- 1、久保惣美術館の『伊勢物語絵巻』
- 2、「みやび」と「ひなび」
- 3、宮廷風恋愛（amour courtois）
- 4、『源氏物語』と姦通
- 5、「もののあはれ」
- 6、『大鏡』の「やまとだましゐ」
- 7、『問はずがたり』のモラルと関東武士の「妻敵討ち」
- 8、朝鮮宮廷小説と『於于野譚』
- 9、「恨（ハン）」と「もののあはれ」

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

＜02～07生＞
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目＜02～06生＞

科 目 名			
日本文化論 [02生～]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、戦後の日本においては否定的に扱われる傾向が強い。そのもつともソフトな形態として「文化ナショナリズム」があるのだが、近代国民国家においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされる。本講義では、その「文化としての日本主義」について考える際に、「武士」という階層を中心にすえて、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱う対象は、主に近代以降の「武士」像についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る「武士」という階層に主導されて、完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。

【講義計画】

1. 『菊と刀』の前と後
2. オリエンタリズムについて
3. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(古代編)
4. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(中世編)
5. 戦後民主主義体制化の日本の自己アイデンティティ

【成績評価の方法】

2度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

深沢徹著『『愚管抄』の＜ウソ＞と＜マコト＞』（森話社・2006）
 深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）
 南博著『日本人論 明治から今日まで』（岩波・1994）
 青木保『日本文化論の変容』（中央公論・1990）
 吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・1997）

【備考】

E・SW・B・J 生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
人間発達論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから（胎児期から）なくなるまでの変化として捉えられている。

身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。

本講義では、発達理論を概観し、ライフステージにおける課題をみていき、人間理解を深めたい。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【講義計画】

- 1 発達とは
 - ・人間の発達の概念
- 2 発達理論の理解
 - ・各理論の紹介と整理
- 3 発達における課題について
- 4 発達の支援
 - ・応用行動分析の立場から

【成績評価の方法】

出席状況、授業時の課題、レポート、学期末試験により、総合的に判断する。

【教科書】

授業時に提示する

【参考文献】

授業時に提示する

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 03	秋学期	2単位	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本実習では、コンピュータネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状の問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】

1. コンピュータネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. LAN、インターネット、ネットワークの構築
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. Web検索とHTML
7. Java、JavaScript他
8. 様々なネットワーク上のサービス
9. 電子メール
10. ネットワーク・セキュリティ
11. ネットワーク運用管理
12. インターネット詳細
13. 現在のネットワークの問題点と将来像
14. まとめ

【成績評価の方法】

課題提出、出席から総合的に判断する

【教科書】

指定無し（Webにて資料提示）

【参考文献】

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN』（共立出版）

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

1. 現代社会とネットワーク
2. 情報通信ネットワークとは
3. インターネット
4. ネットワーク基礎知識
5. TCP/IP
6. クライアントサーバシステム
7. ネットワーク構成
8. WWWとその活用
9. 様々なネットワーク上のサービス
10. 安全性と信頼性
11. ネットワークと犯罪
12. ネットワーク構築手法
13. 今後のネットワーク事情
14. まとめ

【成績評価の方法】

レポートと試験にて評価する。出席についても考慮するが、出席点としては扱わない。

【教科書】

『情報通信ネットワークとLAN』，長坂康史著，共立出版，ISBN 4-320-02966-6

【参考文献】

随時提示

科 目 名			
農業経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

GATT体制からWTO体制へ移り、農産物貿易の自由化が進展しているが、わが国は、世界の中でも農産物輸入大国であり、年々自給率が低下している状況にある。WTO体制の下で、わが国はこのまま農産物輸入の拡大を進めてよいのであろうか？それとも農業保護をすべきなのであろうか？

本講義では、農業の特質を理解するとともに、WTO体制下における農業問題を取り上げ、わが国の農業政策と問題について講義する。

農業経済論では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

本講義が目標とすることは、各自が日本農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

【講義計画】

1. 世界の人口と食糧問題
2. 農業の特質
3. 農産物貿易問題
4. 世界の農業問題
5. 経済発展と食料需給
6. 農産物価格形成と農産物市場
7. 途上国の農業問題
8. 先進国の農業問題
9. 農業政策の諸問題
10. WTO農業協定の意義と評価
11. 日本の農業・農村の問題と農業政策
12. 農業と環境

【成績評価の方法】

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【教科書】

特に指定しないが、講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html>

【参考文献】

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

科 目 名			
博物館概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

学芸員課程の基幹科目である。はじめの講義で学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的は何かについて、ガイダンスを行う。この講義では博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。また本講義においては学生諸君に博物館に行ってもらい、見学レポートを4月に1本、5月に1本の計2本書いて提出してもらう。その締め切りはそれぞれ4月末、5月末の予定である。見学レポートは2本とも提出しなければならない。1本でも提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。

【講義計画】

1. 博物館の目的と機能
2. 博物館の歴史
3. 博物館の現状
4. 博物館倫理
5. 博物館関係法規
6. 生涯学習と博物館

【成績評価の方法】

出席を含む受講態度とレポート、及び試験で評価する。

【教科書】

広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001）

【参考文献】

倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版（1997）その他適宜指示する。

科 目 名			
博物館学各論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」（4単位）しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」（2単位）、「博物館資料論」（2単位）、「博物館情報論」（1単位）、「博物館経営論」（1単位）に改めた。

本講義はその中の「博物館資料論」にあたる。「博物館資料論」では学芸員として必要な博物館資料の収集・保管・展示に関する基礎知識を身につけると共に博物館における資料保存の重要性とその難しさについて理解することを目指す。尚、講義はチーフの井上以外に下記の講師があたる。

- ・ 鮫島泰平（乃村工藝社）
- ・ 河崎晃一（兵庫県立美術館）
- ・ 宇田川滋正（京都造形芸術大学）

【講義計画】

1. 博物館資料の基礎知識（井上）
2. 博物館展示論（鮫島）
3. 博物館資料論（河崎）
4. 保存科学概論（宇田川）
5. 博物館における危機管理（井上）

【成績評価の方法】

原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

【教科書】

『博物館資料論』 石森秀三（財団法人 放送大学教育振興会）

【参考文献】

『文化財のための保存科学』 京都造形芸術大学 編（角川書店）

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館学各論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	山 根 啓 史

【講義概要・学習目標】

本講義では「博物館情報論」及び「博物館経営論」を主題とする。

「博物館情報論」においては、博物館設置基準において映像資料の展示活用やインターネット等での情報発信について実施するよう改正されたように、従来の保管・保存を中心とした博物館像から、生涯学習の拠点としてより理解しやすい展示解説技法や、コンテンツ・ホルダーとしての情報発信機能、デジタルアーカイブ等の新たな機能が求められている。欧米を中心とした先進事例や九州国立博物館等の構築事例を参考に学習を進めたい。

「博物館経営論」においては、自治体財政破綻等を背景に、博物館の存在意義やその経営手法についての議論が続いており、国を中心とした独立行政法人化の動き、自治体を中心とした指定管理者制度の導入、あるいはPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）等の民間活力を導入した手法など、経営についての模索が続いている。欧米における博物館経営と比較しながら、主として日本の自治体博物館経営についてを理解し、その解決に向けた最新の動き等についての理解を図りたい。

【講義計画】

1. 博物館におけるITの概念
2. 博物館設計概論
3. デジタル・アーカイブ論
4. 博物館経営
5. 博物館の活用／教育応用，研究利用

【成績評価の方法】

出席と試験による。また講義においてレポート等を課す。

【教科書】

講義において資料を配布し、それによって進める。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
博物館実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	1単位	巖 圭 介

【講義概要・学習目標】

博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを、学内、学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が担当して指導する。予定している実習は「資料の取材と作成」「展示企画の立て方」「土器の復元」「考古遺物の実測」「文書資料の取り扱い」等である。実習の内容については追って発表するので注意すること。

【講義計画】

9月中旬に5日間実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので注意すること。

【成績評価の方法】

全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし

【参考文献】

実習中に資料を配付する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春・集中コース	1単位	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

多様な博物館の現状を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認を取る。土曜、日曜または休暇中に実施する。総計で12回実施するが、そのうち4回は両コース共通、8回は産業文化、東洋文化のコース別にそれぞれ4回である。尚、自分のコース外の館も見学することが望ましいことは言うまでもない。

【講義計画】

日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。

両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。

産業文化コース：交通科学博物館、大阪ガス・ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。

東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館

【成績評価の方法】

主に実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

は
行

科 目 名			
博物館実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春・集中コース	1単位	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

実習先の博物館で5日間から1週間程度の館務実習を行う。実習先としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、トヨタ博物館、大阪ガス・ガス科学館、なにわの海の時空館、等を予定している。

【講義計画】

4月のガイダンス時に、各人の実習館を決定する。実習は多くの場合、夏期休暇中に行われるが具体的日時や実習内容は各博物館によって大幅に異なっており、同じ博物館でも年によって変更がある。

※各実習館への交通費・宿泊費等は自己負担であるので、注意すること。

【成績評価の方法】

実習館の評価と実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
比較経済体制論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

「ソ連（ロシア）の経済ってどんな特徴あるの？」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、景気回復というが、派遣やフリーターは減らず、年金や生活保障の先行きも不透明、「格差社会」のように貧富の格差が拡大するという状況にある私たちの国日本も「市場経済」＝資本主義だと思うと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。

それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふう崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標にして、（１）社会主義とは本来どのようなものか、（２）わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつか、（３）旧ソ連の経済体制をどう考えるか、（４）ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

【講義計画】

序 論 「比較経済体制論」とは？

第Ⅰ部 社会主義とは何か？

1. 資本主義の本性とその矛盾
2. 社会主義・共産主義の特徴

第Ⅱ部 ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－

3. 十月革命からネップ（新経済政策）の試みへ
4. ソ連型経済制度の成立
5. ソ連経済の崩壊の論理

第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態

6. 「体制転換」の十余年
7. 未来はどこに

【成績評価の方法】

講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

【教科書】

使用しません。プリント配布に注意してください。また、随時参考文献も指示します。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
比較文化概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

「比較文化」の前提は、複数の「文化」の存在である。少なくとも「自文化」と「異文化」の二つが無ければ「比較」することは出来ない。

一方において、そもそも「文化」とは何か？その検討から始めなければならない。そこから複数の「文化」の差異性の根拠も明らかになるだろう。その上で、「比較文化」の方法論と「比較文化」の諸分野を検討する。

他方、黒澤明の映画作品という具体例を「比較文化」的に検討し、上記議論の検証・補強をも試みる。

さらに、両方向をつなぐものとして、様々な外国旅行記をも異文化体験による「比較文化」として視野に入れる。

【講義計画】

- I. 「文化」とは何か？
- II. 「比較文化」の方法
- III. 「比較文化」の諸分野
- IV. 「比較文化」の旅
- V. 黒澤明映画作品とロシア

【成績評価の方法】

授業計画のⅠ～Ⅴの各項目に関して、レポート提出。
学期末の最終レポートは、各自の関心によって具体的にテーマ設定された「比較文化」研究の概要。
出席を重視し、上記合計6編のレポートにより総合的に評価する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

- 柳父章著『＜一語の辞典＞文化』（三省堂刊）
 網野善彦著『東と西の語る日本の歴史』（講談社学術文庫）
 佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』（中公新書）
 『講座・比較文化』全8巻（研究社刊）
 中野毅編『比較文化とは何か 研究方法と課題』（創価大学比較文化研究所叢書Vol. 1 第三文明社）

科 目 名			
比較文学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岩 男 久仁子

【講義概要・学習目標】

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【講義計画】

- ・「イソップ寓話・伝記」と伝承系統
 - ・ギリシアの作家とイソップ寓話
 - ・近世以後のイソップ寓話
 - ・日本に伝播したイソップ寓話
 - ・古代ギリシアの世界観
- 以上のテーマを数回にわたって講義する。

【成績評価の方法】

レポート、学期末テスト、出席状況で評価する。
また、毎回質問意見などを出席カードに書く。これも評価の対象である。

【参考文献】

- 『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円
 『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

は
行

科 目 名			
比較文化研究－「男」と「女」東西史比較			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley

【講義概要・学習目標】

異なる文化を見つめることによって、自分の文化が初めて見えてくることがある。さまざまな「新発見」によってそれまでの「常識」が揺れ動き、いろいろな「当たり前」なことが問われるようになる。そして忘れてならないのは、自分自身も文化の表しであること。したがって、異なる文化の人間を見ることによって自分自身を見つめなおすことになる。

いつものように、「歴史に隠された人々」を掘り起こす授業になるが今回のテーマはジェンダー（性別）と恋愛である。「女」か「男」かによって社会の基準が決まる。しかし、社会の基準に従うかどうかは別問題だ。異性の振る舞いをする人もいれば、性転換で心身ともに異性になる人もいる。恋愛の相手を異性の中から選ぶ人もいれば、同性愛（あるいは両性愛）を選ぶ人もいる。相手選びはあくまでも個人のチョイスであり、ノーマル・アブノーマルはない。

恋愛（特に社会にそむけた恋愛）は歴史の「表街道」にあまり現れない。しかし探ってみればもう一つの街道、「裏街道」があり、そこには社会の恋愛基準に逸脱する人たちはちゃんといふ。講義では、日本・中国・西欧の歴史を探ることによってそれぞれの文化の恋愛観を比較しながら考える。

最後に注意しておくが、この講義は英語で行われる。通じない講義はもちろんさまにならないので聞き取りやすいようにゆっくり話したり、テープに吹き込んだり、キーワードを毎回配ったりなどしてありとあらゆる工夫をする。それにしてもほかの講義と比べては間違いなく難しいし、かなりの労力を要する。毎回出席が要求され、小テストも期末テストもあり、宿題も出る。その代わり、英語聞き取りの力が確実に上達することと、今まで想像もしなかったジェンダーにかかわる話を約束する。好奇心の強い人、並びに英語のヒアリングを磨きたい人はどしどし受講してください。

【講義計画】

順番各地域の表・裏街道恋それぞれの愛観を紹介するけれど、この授業は講義ばかりでない。映画やドキュメンタリーを観たり音楽を聴いたりして、恋愛に関する新しい知識を提供すると同時に「勉強って、実は楽しいもんだったのね」という認識を植え付けたい。

【成績評価の方法】

内容も重要だけれど形としては英語ヒアリング能力を磨くための授業だから毎回の出席が大前提。そのほかに宿題も小テストもあり、期末にもテストを行う。常識の範囲内の成績が要求される。4回生以上の受講生には特別容赦するから恐れずに登録してください。

【教科書】

なし

【参考文献】

そのつど紹介する。キーワードやイラストを含んだプリントを毎回配る

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
比較文化研究－彫刻の世界			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較することとは、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫刻の特徴を概説し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

【講義計画】

1. 比較芸術学の課題と研究領域
2. エジプトの彫刻
3. ギリシアの彫刻
4. ローマの彫刻
5. 仏像に関する諸問題
6. 彫刻の素材

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

【参考文献】

- 『近代芸術学の成立と課題』吉岡健二郎著、創文社
『芸術の世界』井島勉編、創文社
『原色 日本の美術』小学館
『中国美術全集・彫塑編』人民美術出版社

科 目 名			
比較文化研究—日本イメージの交流史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	片 平 幸

【講義概要・学習目標】

本講義では、文化研究に必要な基礎的な概念や学説を学び、比較文化論的な手法を用いて、日本文化の特徴を分析していく。最終的には、日本文化を相対的にとらえる視点を育て、海外で日本文化を英語で紹介できるようなスキルを身につけることを目標とする。講義はすべて英語でおこなひ、文化論の基礎や日本文化に関する資料は、すべて英語文献を用い、そのほかの視聴覚資料も英語によるものとする。なお、講義のために必要な英文資料の予習（宿題）を課していく。

This course introduces key concepts and theories of cultural studies, and by using those theories, some of main features of Japanese culture will be analyzed. It offers students the opportunity to learn broad and interdisciplinary approach to Japanese culture and to develop discussion and presentation skill in English. There will be reading assignment for each lecture and materials are provided in advance.

【講義計画】

Introduction to the course (比較文化研究を学ぶにあたって)

1. Problems of 'Representation' (比較文化論の概念と課題～表象の問題を考える)
2. 'Aesthetics' as analytical concept (文化の分析概念としての「aesthetics」について)
3. Debates on 'Art and Artifact' (文化の分析概念としての「art」について)
Transcultural concept and definition of culture (循環する概念と文化の規定)
4. Tracing images of Japan in the West(西欧における「日本」表象の変遷)
5. Tracing Self-representations of Japan (日本人による「日本」イメージの提示)
Images of Japan in contemporary world (現代の「日本」イメージ)
6. Images of Japan in Asia (アジアにおける日本イメージ)
7. Finding images of Japan within Japan (日本国内に見出す日本イメージ)

【成績評価の方法】

Attendance and Class Participation (出席・授業態度) 15%、Reading assignment (英語文献の予習 (宿題)) 30%、In class test (講義中の小テスト) 20%、Final Examination (期末テスト) 35%

【教科書】

Supplementary materials are provided. 適宜、資料を配付する。

【参考文献】

Materials will be recommended in lectures. 講義のなかで紹介する。

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
比較文明論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を目指す新しい学問です。

一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍的価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。

ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。

本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

【講義計画】

第一部 比較文明序説

1. The Perfect European should be……
2. 「スイカ」は何語？
3. 漢字の世界

第二部 文明の諸相

- 1 対の思考
- 2 理想的な生活
- 3 esprit エスプリ
- 4 言葉遊びの世界

第三部 「人間の普遍性」を求めて

- 1 価値観を疑うー「無用の用」
- 2 理念と現実
- 3 復讐の倫理
- 4 中華思想とユニラテラリズム

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

講義時に資料を配布する。

【参考文献】

KUSHIDA' S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>
今村仁司著『近代性の構造』(講談社選書メチエ)
ユルゲン・ハーバーマース著『法と正義のディスクール』(未来社)
青木保著『異文化理解』(岩波新書)
青木保著『多文化世界』(岩波新書)
藤原帰一著『デモクラシーの帝国』(岩波新書)
ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』(集英社新書)
梅棹忠夫著『文明の生態史観』(中公文庫)
森谷正規著『文明の技術史観』(中公新書)
サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』(集英社)
伊藤俊太郎『比較文明』(東京大学出版会)
串田久治『天安門落書』(講談社現代新書)

【備考】

<02~06生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	2単位	榎 本 光 世

【講義概要・学習目標】

インターネットやワープロの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用され、必須の道具となった。本講は実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方からはじめ、中級レベルまでのスキルを得ることを目指す。

学習目標は、

1. Windowsやパソコンの基本的な操作を習得する。
2. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの一般的なアプリケーションの簡単な使用法を習得する、である。

【講義計画】

1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. Internet Explorerの簡単な使い方（その1）
4. Internet Explorerの簡単な使い方（その2）
5. Wordの基本（その1）
6. Wordの基本（その2）
7. Wordの基本（その2）
8. Excelの基本（その1）
9. Excelの基本（その2）
10. PowerPointの基本（その1）
11. PowerPointの基本（その2）

以上の内容は変更されることもある。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

【教科書】

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を毎時間必ず持ってくること。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	春学期	2単位	大 嶋 耕 一

【講義概要・学習目標】

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究、仕事の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

入門的な内容を基本として授業計画を立てているが、学生個々の学習履歴（例えば「ワープロは基本的な内容を習得している」など）に応じて、アレンジができるように配慮する。また、より学習を深めるための課題も用意する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス、テキストエディタを使ったキーボード操作
- 第2回 ファイルとフォルダの扱い、編集、クリップボードを利用した編集処理
- 第3回 ワープロ入門（1）・・・文書の書式設定と基本的な文字属性
- 第4回 Network入門（1）・・・LANとインターネット、E-mailの使い方
- 第5回 ワープロ入門（2）・・・作表、レイアウト、ビジネス文書
- 第6回 Network入門（2）・・・WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
- 第7回 表計算入門（1）・・・文字・数値・式の入力、セルのコピー
- 第8回 表計算入門（2）・・・表の体裁を整える
- 第9回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
- 第10回 クリップボードの仕組みとその活用
- 第11回～ 総合演習

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する（試験は行わない）。

【教科書】

必要な資料は、授業時にプリントで配布する。ただし、桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておき、授業時には毎回持参すること。

【参考文献】

授業時に紹介する。

科 目 名			
福祉科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

この科目は教職課程における「教職に関する科目」の一つとして位置づけられた高等学校福祉科免許の必須科目である。高等学校の福祉科または普通科総合選択科における福祉科目の授業を担当しうするための基本的な理論と技法について教授する。教授内容は教育目標、教育内容、教育指導法等について系統的に理解させるとともに、実際の授業に必要な指導計画、教材研究、授業設計、評価、改善等についての理論と技法を教授する。教授の方法は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせて展開する。

【講義計画】

1. 福祉科教育の意義
2. 福祉科の学習指導
3. 福祉科の教育課程
4. 福祉科の教材研究と評価
5. 福祉科授業の方法と社会福祉の理解
6. 福祉科教育法の実践 1～5
7. 福祉科模擬授業 1～5
8. 福祉教育の歴史
9. 福祉科教諭の資質

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。
出席回数が3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

【教科書】

硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠 編著『福祉科教育法』 ミネルヴァ書房、ISBN 4-623-03597-2

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名			
福祉事情研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	梓 川 一

【講義概要・学習目標】

1. 生きることを感じあい、考えあえる講義を目指す。そのために演習形式等を取り入れたりする。
2. 人間や社会について広くテーマを設定する。社会における多種多様な問題を取り上げ、主に医療福祉の分野から広く深く考察をする。
3. 講義ではコミュニケーションを重視し、ディスカッションやディベートを取り入れて進める。

【講義計画】

1. 生活史の意味（重度障害者、認知症高齢者、難病者、死に逝く人の人生の物語を考える）
2. コミュニケーションの意味、沈黙の意味
3. 障害をもつこと（権利擁護、障害者の権利）
4. 社会福祉の理論の検討
5. 偏見と差別、貧困、格差社会
6. 自己決定の検討（主体的自己決定とその前提条件）
7. 死刑制度の賛否（極悪犯罪はなぜ起きるか）
8. 障害者と性、高齢者と性
9. 医療福祉の実践課題（難病者の生活状況、ALS患者の自己決定、野宿生活者と結核問題、公害病や被爆者の生活史など）
10. 語りと傾聴、共感の意味
11. 死の準備教育（死に逝く人の心、死の受容、社会福祉の役割）
12. 遊びの意味（遊びと仕事、遊びと社会福祉、遊びと癒し、アートの意味）
13. 人間の価値と尊厳
14. 社会福祉の実践理論（まとめ）

【成績評価の方法】

前期と後期、2回の定期試験に基づいて評価する。

【教科書】

牧洋子他編著『転換期の医療福祉』せせらぎ出版、2005年。（主に後期から活用する予定）

は
行

科 目 名			
フランス語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	高 塚 桂 子

【講義概要・学習目標】

始めてフランス語を学ぶ学生を対象に、自然で生きた会話的スケッチ文を読むと同時に、フランス語の文の構造や文法を理解して、フランス語の基礎を身につけるのが目的です。

耳から、目からとそして口からフランス語になじみます。

言葉の習得には、模倣と反復が欠かせません。

積極的にフランス語で「話す」「聞く」「読む」を体験してみましょう。

【講義計画】

日常会話の平易な表現と、それに必要な基礎的な文法を学習します。

- ・フランス語の発音、性と数
- ・名詞、形容詞、動詞 (Etre, Avoir, その他)
- ・複合過去、近接過去、近接未来

更に、挨拶、簡単な自己紹介、人に物を尋ねる、買物をする等の様々なシチュエーションを想定した会話文の演習も行います。

【成績評価の方法】

筆記試験（各学期末試験・小テスト等）、出席状況と平常点（授業における積極性・反応度等）で総合的に評価します。

【教科書】

プリントを使用します。

【参考文献】

－ Dictionnaire de Poche Français-Japonais / Japonais-Français Royal, OBUNSHA
－ クラウン仏和辞典（三省堂）

科 目 名			
フランス語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	アニー ヤマサキ

【講義概要・学習目標】

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【講義計画】

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回小テストや小レポートを行います。

【教科書】

プリントを使用します。

【参考文献】

電子辞書は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	エディ ルイス バンドロム Eddy Louis VanDrom

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をする事です。たくさんの異なる相手と共同作業をすることのよって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。

ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。

これからの1年間、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につけやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【講義計画】

1. Leçon 1 道で
2. Leçon 2 カフェで
3. Leçon 3 教室で
4. Leçon 4 駅で
5. Leçon 5 カフェテリアで
6. Leçon 6 大学の食堂で
7. Leçon 7 映画
8. Leçon 8 夕食
9. Leçon 9 ピエールとジャックの家で
10. Leçon 10 ビストロで
11. Leçon 11 授業の間で
12. Leçon 12 庭で
13. Leçon 13 郵便局で
14. Leçon 14 電話で
15. Leçon 15 旅行代理店で
16. Leçon 16 キャンパスで

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席／平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【教科書】

授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと

"Le français au quotidien", Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom,

Editions ASAHI, 2005. ISBN 4-255-35167-8

【参考文献】

（例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典」（白水社）など）

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	本 多 雄一郎

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおき、それに必要な基礎的な文法を踏まえながら、ビデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を行っていく。そしてフランス語の基本的な運用力を養成していく。

【講義計画】

「前期」四月中は主に発音練習を行うが、それと同時に挨拶ややさしい自己紹介などの表現を覚えて、フランス語の感覚を身につけていく。又ビデオ教材では単語の読み方や言葉の聞き取り練習も行う。五月以降は、テキストに紹介されている基本的な表現を中心に様々なシチュエーションにおける会話を学んでいく。

「後期」自分や他の人の紹介に加えて、日常生活を表現したり、自分の意見の表現方法や相手に質問したり、多様な会話練習を行っていく。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】

『サリュ！』田辺保子他著 駿河台出版社

ISBN 4-411-00815-7 C1085

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科 目 名			
フランス語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	高 塚 桂 子

【講義概要・学習目標】

既にフランス語Ⅰを学んだ学生を対象に、「話す」「聞く」に加えて「読む」「書く」も充実させて、総合的なフランス語の能力を養うことを目指します。

1年目と同じように積極的な姿勢を望みます。

【講義計画】

既に学んだ事項を必要に応じて復習しながら、より高度な文法を習得していきます。

- ・代名詞
- ・半過去
- ・大過去
- ・単純未来
- ・前未来
- ・条件法
- ・接続法

会話表現から、時事問題を取り上げた現代文までをテーマとしたテキストの演習も併せて行います。

時にはシャンソン等を聞いて、異文化と接しながらフランス語の理解も深めます。

【成績評価の方法】

筆記試験（各期末試験・小テスト）、出席と平常点（授業における積極性・反応度等）で総合的に評価します。

【教科書】

プリントを使用します。

【参考文献】

- － Dictionnaire de Poche Français-Japonais / Japonais-Français Royal, OBUNSHA
- － Petit Dictionnaire Japonais-Français HAKUSUISHA

科 目 名			
フランス語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	アニー ヤマサキ

【講義概要・学習目標】

勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【講義計画】

現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】

プリントを使用します。

【参考文献】

電子辞書は「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

科 目 名			
フランス語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	エディ ルイス バンドロム Eddy Louis VanDrom

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。

やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【講義計画】

1. 授業の紹介と復習
2. 大学で（複合過去）
3. カフェで（代名動詞）
4. ホテルで（中性代名詞）
5. 招待された席で（単純未来）
6. 駅で（半過去）
7. はがき（関係代名詞）
8. キャンパスで（直接話法と間接話法）
9. 友達の家で（接続詞）
10. カフェテリアで（条件法）
11. 診療所で（接続法）
12. 電話で（現在分詞と過去分詞）
13. オルセー美術館で（単純過去）

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席／平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【教科書】

授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと

“Le français au quotidien 2”, Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom,
Editions ASAHI, 2006. ISBN 4-255-35177-5

【参考文献】

（例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典」（白水社）など）

科 目 名			
フランス語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	本 多 雄一郎

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語の基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

【講義計画】

〈前期〉フランス語Ⅰで学んだ事柄を確実なものにするために今一度基本的な表現を復習し、その後はテキストに沿いながら「話す」「聞く」「読む」訓練を通して過去や未来などのより高度な表現を習得していく。

〈後期〉前期に引き続き、様々な表現に必要な特殊構文、動詞の活用などを学んでいく。さらにそれらの項目を含んだ文章を読んで理解したり、内容について質問したり答えたりすることで更なるフランス語力の向上を目指す。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】

『彼女は食いしん坊！2』藤田裕二著 朝日出版社
ISBN 4-255-35166-X C1085

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科 目 名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	榎 本 光 世

【講義概要・学習目標】

プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は有意義である。ソフトウェアには不具合（いわゆるバグ）が付き物なのは何故か、また、要求要件を満たすだけでは何故不十分なのかを実感することができよう。また、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、作り出したりするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間を忘れて没頭する。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは統合開発環境で、編集ソフト、人間が書いた（プログラム・）コードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどが含まれる。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも強力である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすいという側面もある。

本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に自ら問題を作り、解き、さらに改良するといった、創意工夫を凝らすことが求められる。さながら作品を仕上げるアートの実践のようでもある。

本講を受講するに際してプログラミングに対する予備知識は全く不要で、未経験者を対象にしている。しかし、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得してから臨むこと。

本講の学習目標は、プログラミングを体験し、初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

【講義計画】

1. 講義概要と受講上の注意とVB事始め（その1）
2. VB事始め（その2）
3. ボタンとMsgBox
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 判断分岐（その1）
7. 判断分岐（その2）
8. 繰り返し処理（その1）
9. 繰り返し処理（その2）
10. 変数の配列
11. 自由課題プログラムの作成準備
12. 自由課題プログラムの作成
13. 自由課題プログラムの作成フォロー

以上の内容は変更される場合もある。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。自由課題プログラムは必ず提出しなければならない。

【教科書】

毎時間プリントを数枚配布するので、バインダーのようなものを必ず用意すること。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

科 目 名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	秋学期	2単位	大 嶋 耕 一

【講義概要・学習目標】

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【講義計画】

第1回 ガイダンス、BASIC言語とは

第2回以後（自修方式）

◆必須修得内容（進度順）

以下は全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例
処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、
オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現（演算子・関数）、
ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、
実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造
選択構造（ifステートメント）
反復構造（whileステートメント）

◆追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習）

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。
（試験は実施しない）

【教科書】

プリントでテキストを配布する。

【参考文献】

ステップバイステップで学ぶには、

薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」, 日経BPソフトプレス, 2003

参照用には、

山田 健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET機能引きハンドブック」, ナツメ社, 2003

科 目 名			
文学－西洋Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊穡なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【講義計画】

便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。

- I. ヨーロッパ文学の源泉
- II. ルネッサンス（14、15、16世紀）
- III. 古典主義（17～18世紀）
- IV. 啓蒙主義（18世紀）
- V. ロマン主義（18～19世紀）
- VI. リアリズム（19～20世紀）
- VII. 象徴主義と《世紀末》
- VIII. 《両大戦間》・20世紀

各項につき、3～4講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得ます。

【成績評価の方法】

春学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

【教科書】

特に定めません。

【参考文献】

ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることになります。

科 目 名			
文学－西洋Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	高 田 里恵子

【講義概要・学習目標】

この講義では、ドイツ近代文学の主要な作品を取りあげながら、文学理論の基本的な知識を獲得し、また作品の読み解きの方法を学ぶことを目的とする。多くの作品に触れ、読書の楽しみに目覚めてほしいと願っている。また、映像化されている作品も多いので、いくつか授業中に観る予定である。

【講義計画】

- 1. バロック文学について
- 2. 天才美学の誕生
- 3. 1800年前後のドイツ文学（ロマン主義）
- 4. 世紀転換期のドイツ文学（第一次大戦前後の動向）
- 5. ナチズムと映像表現

【成績評価の方法】

最後に期末試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

藤本淳雄他著『ドイツ文学史』（東京大学出版会）
そのほか、授業中に指示する。

は
行

科 目 名			
文学－日本Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると極めて異例である。なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての＜女＞に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行った。また「平安文学」の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ホブズボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを＜女＞のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。

【講義計画】

1. 進駐軍（アメリカ軍）による占領統治という体験のもつ意味
2. 水村美苗著『私小説』と『本格小説』の日本の特質
3. 自己言及テキストとしての私小説と日記文学
4. 自己言及テキストとしての源氏物語
5. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想
6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化

【成績評価の方法】

2度の教場試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【教科書】

深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）

【参考文献】

ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）

科 目 名			
文化社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	北 川 紀 男

【講義概要・学習目標】

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない重要な研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、ついで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいて、社会的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

【講義計画】

授業は、テキストを中心に下記のテーマに従って進める予定ですので、参考にして下さい。

- ①イントロダクション ― 社会学的認識について―
- ②社会学における文化の研究 ― 歴史と方法論―
- ③文化の概念 ― シンボル・意味・価値―
- ④文化と社会規範 ― 規範・社会化・タブー―
- ⑤生活文化 ― 生活様式としての文化―
- ⑥文化と文明 ― 文明社会の諸問題―
- ⑦知識の社会学 ― 知識・イデオロギー・科学―
- ⑧大衆化と文化 ― 大衆文化・被操作性―
- ⑨国際化と文化 ― 民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション―
- ⑩情報化と文化 ― 情報化社会・ニューメディア―
- ⑪共生化と文化 ― 高齢者・障害者・ジェンダー―
- ⑫文化変動と社会変動

【成績評価の方法】

原則として、期末試験に基づいて評価する。ただし、学習状況をみてレポートの提出を求めることもある。

【教科書】

北川紀男『文化社会学研究』2004年（八千代出版）
（ISBN 4-8429-1111-5 C3036）

【参考文献】

参考文献やその他の資料については、その都度指示する。

【備考】

SW生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
文化人類学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	小 池 誠

【講義概要・学習目標】

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチを通して、異文化に対する理解を深めることを目的とする。また、多様性を通して現れてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす、文化人類学の視点を身につけてもらいたい。

地域に根ざした日常文化を学ぶだけでなく、グローバリゼーションが進む現代世界で、地域社会がどのように変化しているかも考えていきたい。また、講義では、日本の民俗行事からアフリカの婚姻制度まで、世界中の多様な文化を取り上げる予定である。受講生の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を講義のなかに取り入れていきたい。

【講義計画】

- 1 文化人類学とは何か？
- 2 家族と結婚の多様性：家族とは、結婚とは何か？
- 3 交換と権力：なぜものを贈るのか？どうして人は力をもつか？
- 4 国家と民族：なぜ民族紛争が起きるのか？
- 5 宗教と儀礼：人は何を信じ、何を求めるのか？
- 6 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の素点をもとにして成績をつける。ただし、講義終了時に必要に応じて提出を求める出席カード（コメントを書く）も加味して総合評価を決める。参考までに、2005年度文化人類学の成績評価は、受講者343人中、A40. 2 %、B16. 0 %、C19. 8 %、D13. 1 %、試験欠席10. 8 %であった。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

概要

この講義では、受講者に現代日本法の概観を与えたうえで、市民の社会生活に関連の深い法分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）につき略説する。以下、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

目標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【講義計画】

- 1 社会生活と法
- 2 民法
 - 1）総則（成年後見を含む）
 - 2）物権
 - 3）契約
 - 4）不法行為
 - 5）親族
 - 6）相続
- 3 憲法
 - 1）基本原理
 - 2）基本的人権
 - 3）地方自治
- 4 行政法
 - 1）行政行為・行政手続
 - 2）行政不服審査
 - 3）行政訴訟
 - 4）情報公開
 - 5）地方行政組織

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【教科書】

菅野和夫ほか編『ポケット六法 平成19年版』（有斐閣）
*他社の『六法』でも可

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	馬 場 巖

【講義概要・学習目標】

法は、私達にとって非常に密接なものです。社会で生活をしていく上で、法を避けて生活することはできません。ですから、法を理解して自分のものにすることは大事なことといえます。この講義では、皆さんの身近な事例を通して、法律の基礎を身につけられるようにしていきたいと思っています。

【講義計画】

まずは、法とは何か、法と他の社会規範との関係、法源など、法の基礎を概略します。その後、人の一生を通して法律との関係を見ていきます。具体的には、胎児と権利能力、出生、親子関係、婚姻、契約、不動産と法律、不法行為、相続などについて行う予定です。

なお、話題の事件・判決などが出た場合は、それに関する授業にかえることがあります。

【成績評価の方法】

授業中に行うレポートと試験によって評価します。

【教科書】

「法学・憲法講義要綱」富澤輝男 辛夷社

【参考文献】

授業で指示します。

【備考】

私語は厳禁です。
SW生は、対象外

科 目 名			
法情報学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	福 永 正 三

【講義概要・学習目標】

情報技術の進展にともない、情報はますます多機能化し、その使い道は拡大・伸張の一途にある。その結果、われわれの生活は簡便かつ効率的になる反面、情報をめぐるトラブルは精神的にも経済的にも多発し、それによる影響は深刻化してきた。

このような事態に社会的なルールはどう対応しようとしているのか。例えば、個人情報をもくろみ捕縛され、いつ暴かれるかもしれない人々の精神の平穩の確保、あるいは技術的にいとも簡単に盗用できる知的財産（その典型例は著作物）の保護などの要請に、法的な手当ては十分なのだろうか。

また、今日の情報にかかわる技術環境に我々はどう向き合っていくべきなのだろうか。例えば、インターネット・ウェブ（電子掲示板、ホームページetc.）を通じて個人があたかも放送局をもてるような状況に、われわれが「心すべき」ことがあるとすれば、それは何なのか。情報に関わるモラルと法的な規制との関係はどうなのか。

この講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を連携的に学習することを目的とする。講義名を「情報の法と倫理」と読み替えた方が解りやすいかもしれない。

【講義計画】

1. 情報化社会の諸相とその特質
2. 情報と法
 - －多様な情報に対する保護法制はどうか
 - 1) 情報保護法制・概論
 - 2) 人格権としての情報の保護
 - 3) 財産権としての情報の保護
 - 4) 刑事法による情報の保護
 - 5) 知る権利と情報民主主義
3. 情報と倫理
 - －情報倫理とは何か、一般の倫理とどう違うのか
 - 1) データの収集・管理と情報倫理
 - 2) 電子メール・ホームページと情報倫理
 - 3) セキュリティ技術と情報倫理
 - 4) メディアにおける情報倫理
4. 総括：情報化社会において求められる人間像とは

【成績評価の方法】

講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テストをおこない、学年末の期間内試験とともに総合評価する。

なお、出席状況も評価に加える。

【教科書】

教科書は使用せず、毎週の講義時にレジュメを配布する。

【参考文献】

講義の進行にあわせて図書館に所蔵されている適当な参考文献の紹介と探し方を教示するとともに、参考資料として講義で取扱う法令や判例等をプリントして配布する。

なお、インターネット上で関連資料を掲載するサイトも紹介する。

科 目 名			
法職インターンシップ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋・集中コース	2単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

インターンシップとは、在学中に企業等において研修的な就業体験をする制度で大学教育と社会での実地体験を結合することにより、教育効果をいっそう挙げることを目的とする。

法学部で開講する法職インターンシップも同様であって、在学中弁護士事務所等法職の事務所において、就業体験を得ることで、大学での教育効果をいっそう高め、又、学生の職業意識を涵養、醸成することなどを目的として実施する。

なお、本科目は、事前に実施される応募（基幹科目の単位を平均B以上であること等）、選考の手続きを経て、受講決定を受けていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【講義計画】

プログラムの概要

（１） 事前研修

- A プログラム・応募資格等のガイダンス
- B 研修企業・団体による事前研修
- C ビジネスマナーの指導
- D 研修要領の説明と報告書の作成指導

（２） 研修期間

夏期休暇中に、弁護士事務所等で研修を受ける（60時間以上、2週間の予定）

（３） 事後研修

研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、研修先からの評価、研修報告書及び事後研修などを総合的に勘案して評価する。

【備考】

受講対象者は3回生で、学科選択科目に位置する。

科 目 名			
法職オリエンテーション			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

法学部の学生諸君は、その多くが将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進みたいと考えているだろう。法職オリエンテーションでは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々を招いて、実社会での法実務の興味深い事例や事件について話を聞く。

法学部でこれから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいにしている。

【講義計画】

講義開始時に、講師一覧表を配布する。

参考のため、昨年度の主な講師とそのテーマを紹介する。

- ・新垣たずさ氏（環境省・本学卒業生）
「公的仕事の多様性」
- ・佐野 正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）
「裁判官の生活」「弁護士の仕事」
- ・辰野勇氏（(株) モンベル代表取締役社長・冒険家）
「遊ビジネス——冒険と夢を語る」
「グローバル・マーケットへの挑戦」
ーカリフォルニア連邦地裁陪審裁判を経験してー
- ・久米川良子氏（久米川法律事務所・弁護士）
「消費者契約について」
- ・木本博之氏（兵庫県行政書士会理事・W. セミナー専任講師）
「行政書士の仕事」
- ・大貫政雄氏（大阪府警警務部警務課）
「警察官の職務」
- ・藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官）
「検事、その多彩な職域と職務
ー格好よくするのは楽じゃないー」

【成績評価の方法】

2／3以上の出席を単位認定の最低条件とする。
時々課すレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

受講対象者は3回生で、学科選択に位置する。

は
行

科 目 名			
法女性学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	白 石 玲 子

【講義概要・学習目標】

日本国憲法第14条・第24条に男女平等が規定され、それまでのあからさまな女性差別規定は削除された。しかし、その後今日に至るまで、社会には様々な女性差別が存在し、その法的解決が図られて来ているが、未解決の問題も多い。さらに新たな動きとして、2006年の男女雇用機会均等法改正は、女性差別の禁止から男女両方に対する差別を禁止するものとなった。

このような女性をめぐる法について、歴史と現状を学んで将来を展望してほしい。

【講義計画】

総論

- 1 法女性学のあゆみ
- 2 日本国憲法の制定
- 3 女性差別撤廃条約
- 4 男女共同参画社会基本法

各論

- 1 家族法と女性
結婚・離婚・母と父・相続など
- 2 労働法と女性
労働基準法の女性保護規定・男女雇用機会均等法など
- 3 刑法と女性
性犯罪・堕胎罪と人工妊娠中絶の合法化など
- 4 リプロダクティブ・ライツ
- 5 その他の諸法

【成績評価の方法】

学期末試験またはレポートによるものとするが、受講者数によっては、授業中に小レポートを課して、その成績を加味する。

【教科書】

白石玲子著『夫婦別姓を生きる ジェンダーで読みとく家族の法』フォーラム・A、2003年、1000円（税込み）
上記のテキストでカバーしない分野については、プリントを配布する。

【参考文献】

授業中適宜指示する。

【備考】

六法を持っている学生は、授業時に持参して下さい。

科 目 名			
法制史－西洋法と日本法の出会			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	的 場 かおり

【講義概要・学習目標】

わたしたちが現在用いる法律やそのシステムの基礎は誕生して100年、場合によっては50年あまりの歴史しかない。この現代法の基盤たる「近代法」の形成、あるいは「法の近代化」を考察することが、本講義の目的である。法概念、法の体系性など「近代法」の多くの要素は現代法にも受け継がれており、「近代法」の形成とその展開を学ぶことはきわめて有益である。

明治時代とともに始まる「法の近代化」では、近代化モデルが中国から西洋諸国に変更され、近代日本は精力的に西洋近代法を受け容れた。したがって「法の近代化」を考えるうえでは、日本と西洋の近代法を比較することは欠かせない。1学期は「西洋の法の近代化」を、2学期は「日本の法の近代化」をそれぞれ学習のテーマとする。

この講義を通して、わたしたちが普段自明であると考えている法概念や法体系がどのように西洋で誕生・展開・変容したのか、その後どのように日本が継受・展開・変容したのか、現代法とどのような連続性・断絶性をもっているのか、ということを考える。

【講義計画】

【1学期】日本法を近代化する際のモデルとされたと言われる、ヨーロッパとりわけ大陸法系諸国の近代法を学習する。

1. 法の近代化とは
2. 近代化とナポレオン
3. 三月前期のドイツ～法典編纂論争を中心に
4. 三月革命
5. フランクフルト憲法の制定とプロイセン憲法の欽定
6. ビスマルクによるドイツ統一
7. ドイツ帝国憲法ならびにその他の法典の編纂

【2学期】明治維新とともに始まる日本の近代を法という観点から読みとく。

1. 明治維新と近代化政策
2. 中央集権化と行政機関の改革
3. 大日本帝国憲法の欽定とその特徴
4. ボアソナードと刑法典の編纂
5. 治安立法～「臣民の権利」における法律の留保
6. 旧民法と明治民法～民法典論争の意味とその結果

【成績評価の方法】

①出席、②レポート（1学期）、③テスト（2学期）に基づく総合評価によって成績を判断する。

【教科書】

岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版、1996年）

【参考文献】

適宜授業中に指示する。

ただし、講義の基本的理解を助ける文献として、富永健一著『日本の近代化と社会変動』（講談社、1990年）、村上淳一著『近代法の形成』（岩波書店、1979年）、川口由彦著『日本近代法制史』（新世社、1998年）、勝田有恒他著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）、山中永之祐編『日本近代法案内：ようこそ史料の森へ』（法律文化社、2003年）などが挙げられる。

科 目 名			
法哲学－正義・権利・人権			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沼 口 智 則

【講義概要・学習目標】

「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとって最初に問い、そして最後にもう一度問う問題である。

法哲学は、この問いに正面からとりくむ学問であるといえよう。法を通じて、現代をとらえ未来を展望するための基軸（視座）を獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。

【講義計画】

メイン・テーマ「正義・権利・人権」

1. 法哲学とは何か
2. 欧米諸国の法哲学の傾向－英・米・独を中心として－
3. アジア諸国の法哲学の傾向－日本・韓国を中心として－
4. 現代正義論・権利論・人権論
5. 現代法哲学と二十一世紀の諸問題－たとえば生命倫理・地球環境問題・核問題・民族や宗教紛争・テロ問題etc……

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験（論述式選択問題）で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【教科書】

長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（2004年 信山社）

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科 目 名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表・損益計算書）を作成しなければならない。

その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）&アカウンタビリティの必要性が最重要視されている。

決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。

更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【講義計画】

<前半>

1. 複式簿記の原理…
 - (1) 簿記の意義と目的
 - (2) 簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
 - (3) 簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目）
2. 仕訳帳と元帳…
 - (1) 仕訳と仕訳帳
 - (2) 転記と元帳
3. 試算表……………
 - (1) 試算表の意味と種類
 - (2) 試算表の貸借合計不一致
4. 決算（その1）…
 - (1) 決算の意味と手続
 - (2) 帳簿決算（英米式・大陸式）

<後半>

5. 取引の記帳…………
 - (1) 現金・預金取引
 - (2) 商品売買取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳・商品売買益の計算）
 - (3) 信用取引
 - (4) 手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）
 - (5) 有価証券取引
 - (6) 固定資産取引
 - (7) 個人企業の資本取引
6. 決算（その2）…
 - (1) 決算整理の意味
 - (2) 棚卸表
 - (3) 棚卸減耗損と商品評価損
 - (4) 貸倒引当損と貸倒引当金
 - (5) 有価証券評価損
 - (6) 減価償却
 - (7) 費用・収益の繰延べと見越し
 - (8) 精算表

【成績評価の方法】

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。

【教科書】

加古 宜士・渡部 裕亘（編著）

「新検定簿記 ワークブック 3級」（中央経済社）

「新検定簿記講義 3級」

科 目 名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	山 本 浩 二

【講義概要・学習目標】

企業は、利益を獲得することを目的にして、さまざまな活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験が行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。

【講義計画】

- (1) 複式簿記の計算原理（損益法と財産法）
- (2) 複式簿記の計算構造
- (3) 勘定と記帳
- (4) 試算表、精算表
- (5) 決算
- (6) 個別勘定科目の処理－現金、当座預金
- (7) 個別勘定科目の処理－商品売買
- (8) 個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金、手形
- (9) 個別勘定科目の処理－有価証券、固定資産その他の勘定
- (10) 決算手続きと決算整理事項

【成績評価の方法】

期末試験で評価する。

【教科書】

加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社
加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社

【参考文献】

必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験 3 級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。

科 目 名			
保険論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

保険はリスクに対処する経済的手段の一つである。リスクに対する合理的管理法は、一般にリスク・マネジメントと呼ばれており、その手段は、基本的にリスク・コントロールとリスク・ファイナンスに分けて考えられる。そして保険は、リスク・ファイナンスのなかで中心的な役割をなしている。リスクが増大している社会では、リスク・マネジメントや保険の学習はおそらく不可欠のものとなるだろう。

ところで、日本の保険制度は、現在転換期にあると思われる。以前の日本では考えられなかったような様々な出来事が起きている。これは、保険制度に限らず、日本自体が歴史的な転換期にあるからであろう。

この講義では、まず最初に、リスク・マネジメントと保険についての基礎的な学習を行う。その上に立って歴史や文化等の諸要素を考慮しつつ、転換期における保障制度のあり方についても考えていきたい。

【講義計画】

主な講義内容は、次の通りである。

- ① リスクの意味と内容
- ② リスク・マネジメント
- ③ 保険の意義と役割
- ④ 保険の類似制度
- ⑤ 保険の契約
- ⑥ 保険の種類と代表的な保険について
- ⑦ 保険の歴史と文化
- ⑧ 保障制度の将来

【成績評価の方法】

期末テストとレポート等による。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、B 生対象外

B 生は学科教育科目

科 目 名			
ボランティア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

市民社会を形成する新しいセクターとして、その社会的地位を確立しつつあるボランティア活動、市民活動、社会貢献活動、NPO等についての基本的理解を中心に、その実態、社会的意義等、ボランティア活動概念の変化、及び、その多様な活動内容を検証していく。

【講義計画】

講義概要

1. ボランティアと市民社会の関係
 - (1) 市民という概念／市民性
 - (2) 市民活動・ボランティア活動
 - (3) 市民社会という概念の変化
 - (4) 公益性について
2. NPO（非営利組織）とは何か
 - (1) 組織運営について
 - (2) NPO法・制度
 - (3) 社会的役割
 - (4) その他
 - (5) 多様な活動領域
3. ボランティアの新しいあり方
 - (1) 連携・協働
 - (2) 企業の社会貢献・社会的責任
 - (3) 教育とボランティア
4. その他
 - (1) ボランティアコーディネーター
 - (2) ネットワーキング
 - (3) 活動の評価

以上の内容を、状況に応じて組み合わせながら授業を展開していく予定です。

【成績評価の方法】

毎時のコメントカード（出席カード）の内容、課題レポート、試験等により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。

毎時テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】

『ボランティアと市民社会～公共性は市民が紡ぎだす～』 編者：立木茂雄 発行：晃洋書房 1997年初版

『なぜボランティアか「思い」を生かすNPOの人づくり戦略』 著者：スーザン・エリス 訳者：筒井のり子他 発行：海象社 2001年初版

『非営利組織の経営－原理と実践－』 著者：P・F・ドラッガー 訳者：上田惇生他 2004年第18刷

『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』 著者：ロバート・D・パットナム 訳：河田潤一 2001年

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、SW生対象外

SW生は学科教育科目

科 目 名			
マーケティング論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	鈴 木 幾多郎

【講義概要・学習目標】

この講義では、マーケティングの役割、市場機会とマーケティング・マネジメント、価値創造と顧客創造、価値実現と顧客維持、消費者市場と消費者行動の分析、競争構造と競争戦略、マーケティング・チャネル戦略、製品開発とポジショニング、価格戦略、ブランドとブランディング戦略などのマーケティング問題を分析するための基本概念を説明し、具体的な事例を紹介しながらマーケティング戦略の考え方を解説する。

【講義計画】

1. マーケティングの役割
2. 市場機会とマーケティング・マネジメント
3. 市場創造と企業活動
4. 価値形成と価値実現のマーケティング
5. マーケティング組織のデザイン
6. 事業の定義
7. 競争構造と競争戦略
8. マーケティング・チャネル戦略
9. 関係性マーケティング
10. ブランドとブランディング戦略
11. ITと現代のマーケティング戦略

【成績評価の方法】

小テストならびに試験で評価する。

【教科書】

石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナール・マーケティング入門』日本経済新聞社

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

は・ま・行

科 目 名			
マスコミの英語研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	萬 戸 克 憲

【講義概要・学習目標】

この授業では、TVニュースが聞き取れるようになることが目標である。現在日本および世界の各地で起こっているさまざまな問題について、幅広い立場から考えることが出来るように構成する。

基本的にはイギリスのBBCを視聴しながら、TIMEやNewsweekの関連記事も随時取り上げる。

なお、核課題のあとには、そのテーマについて自分の考えを100～150語の英語でまとめて提出し、発表する。

さらに、毎時間の最初には数名に英語でのスピーチを課す。

途中で欠席すると、どんどん遅れていくので、欠席しないように。

【講義計画】

前期

Britishness Test for Foreigners
Mozart's 250th Anniversary
Indonesian Volcano Erupts
Same-Sex Marriage
Rebuilding Beijing & C.

後期

Are We Happy?
Lessons from Steiner Schools
Evidence Links Red Meat to Bowel Cancer
Britain's Oldest Mother
Prince Harry Continues His Mother's Work
Should Schools Ban Junk Food? & C.

【成績評価の方法】

授業への参加度、年間4～5回になる英語でのスピーチ、各課の後で提出するEssay、および期末考査

【教科書】

Sakane Onoda, et al. 「Understanding the News in English 4」
Kinseido

科 目 名			
マス・コミュニケーション特講－メディア史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	津金澤 聡 廣

【講義概要・学習目標】

現代日本におけるマス・メディアの発展と社会・文化状況との深い関わりについて検討を行う。その研究方法の一助として、多様な映像資料を活用してメディア史の視点から考察を深める。講義では毎回関連VTRや映画・DVDなどの視聴を参考に、現代日本のメディア史研究にとって、何がなぜ問題なのかを共に考えてみたい。

【講義計画】

以下のテーマに添って概説する。

1. メディア史としてのコミュニケーション研究
2. 20世紀以降のマス・メディアの発展
3. 活字文化の時代から映像文化の時代へ
4. 映画の誕生とラジオ・メディアの登場
5. 大衆娯楽の王者としての映画全盛時代
6. 関西における視聴覚メディアの発展と民衆
7. 戦時体制化のマス・メディア状況
8. 敗戦とマス・メディア
9. 戦後メディアとしてのテレビと広告

【成績評価の方法】

平常点（レポート提出等、欠席調査を兼ねた復習小テスト4～5回）と学期末試験による総合評価。

【参考文献】

その都度指示するが、たとえば次の文献などは必ず読んで欲しい！

- （1）佐藤卓巳『現代メディア史』岩波書店、1998.
- （2）川本三郎・筒井清忠他編『大衆文化とマス・メディア』（近代日本文化論7）岩波書店、1999.
- （3）有山輝雄・竹山昭子編『メディア史を学ぶ人のために』世界思想社、2004.

その他、多数

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	石 田 あゆう

【講義概要・学習目標】

現代社会でのものの見方や人間関係にたいして、メディアがどのような影響をおよぼしているか。この疑問にそって、これまで展開されてきたマス・コミュニケーション論、メディア論の歴史を紹介する。また一方で、現在のメディア状況において何が問題とされ、議論されているかについても講義する予定である。一般にわれわれは漠然とメディアからの影響を感じているが、実際のところマス・コミュニケーション、つまり社会にたいするメディアの影響とはいったいどのようなものであり、どの程度のものなのか。メディアがもつといわれる影響力、しかしそれは絶対的なものではなく、ある程度社会の文脈に規定されたものであるということを理解してもらいたい。こうした議論を整理し、90年代以後の「新しいメディア状況」下のマス・コミュニケーションについて考える。

【講義計画】

1. 講義ガイダンス
- 2～5. マス・コミュニケーションとメディアの影響力（4回）
- 6～9. 文化現象としてのマス・コミュニケーション（4回）
- 10～13. マス・コミュニケーション／パーソナル・コミュニケーション（4回）
14. 全体のまとめ

【成績評価の方法】

平常点：5％・・・講義内容についてコメントを求めることがある。
 期末レポート試験・・・95％

【教科書】

特に指定しない。適宜紹介する。

【参考文献】

田崎 篤郎、児島 和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開 改訂新版』北樹出版、2003年

【備考】

<02～07生>
 共通自由科目として、SS生は対象外
 SS生は学科教育科目

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	津金澤 聡 廣

【講義概要・学習目標】

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

【講義計画】

次の各領域について概説を行う。

1. ジャーナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義
2. テレビ批判の系譜
3. マス・メディアをめぐる法的諸問題
4. 放送法の主要な論点
5. プロパガンダ研究から宣伝・広告研究へ
6. 宣伝法と現代消費社会における宣伝・広告の手法
7. テレビCMの社会心理
8. プライバシーの権利と肖像権をめぐる諸問題

【成績評価の方法】

平常点（レポート提出等）（出欠調査を兼ねた復習小テスト4～5回）と学期末試験による総合評価。

【参考文献】

津金澤聡廣・田宮武著『テレビ放送への提言』ミネルヴァ書房、1999年
 その他、その都度指示する。

科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	9月集中	2単位	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実にも努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

【講義計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディア概論
 - 2) 各マルチメディアの利用方法
 - 3) 学校における情報環境
2. ソフトウェアを選択して、メディアの表現や発信
 - 1) デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
 - 2) 印刷物の電子化技術
 - 3) デザイン技法とのかかわり
3. モデル化とシュミレーション（作品作成）
 - 1) モデル化
 - 2) マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4. シュミレーション（表現方法の工夫・情報の統合）

SGML XMLの処理演習と活用事例
5. マルチメディアと周辺領域の関連
 - 1) 情報検索およびデータベースとマルチメディア
 - 2) 関連法規、倫理との関連
6. まとめ

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【教科書】

必要に応じて適宜容易する

【参考文献】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	森 下 舒 弘

【講義概要・学習目標】

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータの発達が目覚ましいものがある。文字データだけでなく画像（静止画・動画）音声データを処理できるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力、メディア・リテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠となってきている。

本講義では、メディア統合、情報・通信時代のそれぞれのメディア特性、基礎理論を理解し、表現手段として活用能力、また単にメディアコンテンツが作れるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を実習で身につけることを目的とする。

【講義計画】

1. マルチメディア概論
 - 1) マルチメディア概論
 - 2) マルチメディアの利用方法
 - 3) 情報環境（ハードウェア環境、ソフトウェア環境）
2. デジタルコンテンツの作成方法とメディア表現
 - 1) 静止画作成・編集
 - 2) 動画作成・編集
3. マルチメディアと周辺領域
 - 1) 情報検索とマルチメディア
 - 2) データベースとマルチメディア
 - 3) 関連法規、倫理との関連
4. まとめ

【成績評価の方法】

実習と出席点で総合評価

【教科書】

特になし。適時プリントを配布

【参考文献】

講義に提示する。

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	2単位	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウェア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

【講義計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディアの現在
 - 2) 各マルチメディアとインターネット
2. ソフトウェアとメディア
3. 表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
 - 1) 電子化技術の追求
 - 2) メディアとしての仮想現実空間
 - 3) メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
 - 4) 図形表現とその演習
 - 5) 画像表現とその演習
4. 環境とメディア
 - 1) メディアと環境
 - 2) メディアと歴史
 - 3) メディアと倫理（ことばの暴力）
 - 4) 関連法規との関連
5. まとめ：マルチメディアの意義

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【教科書】

必要に応じて 適宜容易する

【参考文献】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	森 下 舒 弘

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な情報伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。それらを通じて提供される情報は、情報社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。又、現代は、コンピュータの発達・変化だけではなく、メディアのコンテンツが、ネットワーク上で融合するメディア融合の時代ともいえる。

本会議では、メディアとソフトウェア、表現、環境はどのような関連を持つのか、その基礎理論、歴史、環境を学習することにより、ユビキタス社会での知識、情報の活用、新しいものを生み出す創造力を身に身につける事を目的とする。

【講義計画】

1. メディア（媒体）とは
 - 1) メディアの歴史
 - 2) メディアと社会環境
 - 3) メディア・リテラシーとは
 - 4) ユビキタス社会とは
2. 表現とメディア
 - 1) ハードウェアとソフトウェア
 - 2) マルチメディアの現在
 - 3) ネットワーク社会
3. マルチメディアの意義と問題点
 - 1) メディアとしての仮想現実空間
 - 2) メディアリアリティ（公共媒体）
 - 3) メディアリアリティ（広告媒体）
 - 4) メディアと倫理、関連法規
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席を兼ねた小テスト（随時）
定期試験と出席点で総合評価

【教科書】

特になし。適時プリントを配布

【参考文献】

第一講時および適時提示する。

科 目 名			
民事執行法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることになります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。

民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、民法・商法（会社法）、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の倒産処理法を併せて受講することが望まれます。

【講義計画】

- 第1回 民事執行法の位置づけ
- 第2回 民事執行制度の意義と基本構造
- 第3回 執行機関と執行法上の不服申立て
- 第4回 不動産執行（1）差押え
- 第5回 不動産執行（2）売却の準備
- 第6回 不動産執行（3）買受人の法的地位
- 第7回 不動産執行（4）引渡命令
- 第8回 不動産執行（5）執行競合・配当要求
- 第9回 動産執行
- 第10回 債権執行（1）差押え
- 第11回 債権執行（2）換価・配当
- 第12回 非金銭執行（1）引渡・明渡執行
- 第13回 非金銭執行（2）代替執行、間接強制、意思表示義務
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

（1）平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、（2）講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。

講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。

講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「民事執行規則」が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
民事訴訟法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と、民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は必要不可欠であり、「権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できる」といっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。

法律学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものです。そこで、本講義の受講生には、商法（会社法）、さらに秋学期に開講予定の民事執行法および倒産処理法を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。

【講義計画】

- （1）訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）
- （2）訴訟の開始（訴え提起とその効果）
- （3）訴訟要件（訴えの利益）
- （4）訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）
- （5）判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）
- （6）訴訟の進行（職権進行主義）
- （7）訴訟手続の中断・中止
- （8）争点整理手続
- （9）口頭弁論と弁論主義
- （10）口頭弁論における当事者の態度
- （11）証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）
- （12）終局判決による訴訟の終了
- （13）判決の効力（既判力・執行力・形成力）
- （14）判決効の拡張
- （15）当事者による訴訟の終了（訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）
- （16）複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）
- （17）訴訟承継
- （18）上訴・再審
- （19）国際民事訴訟～国際私法との交錯
- （20）裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟

【成績評価の方法】

（1）平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、（2）講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。

講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。

近年、重要な法改正が相次いでいますので、講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、民事訴訟規則が掲載されている六法を携行して下さい。特に、本講義とあわせて秋学期の民事執行法や倒産処理法の受講も考えている人は、民事執行規則・民事再生規則・会社更生規則など、参照が必要な規則類が掲載されているものを購入して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
民俗学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたあと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。ときどき映像民俗資料の鑑賞も行う。

【講義計画】

1. 民俗学とは何か－民俗学の課題と方法
2. 人生儀礼－誕生から葬送まで
3. 年中儀礼－盆と正月
4. 俗信－予兆・卜占・禁忌・呪術
5. 民俗語彙－地名・屋号
6. 昔話－タイプと研究方法

【成績評価の方法】

期末試験による。

【教科書】

稲田浩二・稲田和子編著、『日本昔話百選』、三省堂。
新谷尚紀編著、『民俗学がわかる事典』、日本実業出版社。

【参考文献】

福田アジオ他編、『講座 日本の民俗学』、全11巻、雄山閣出版。
福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』、全2巻、吉川弘文館。
井之口章次「日本の俗信」、弘文堂。
稲田浩二、「昔話の源流」、三弥井書店。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
民法Ⅰ〔J〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	佐 藤 啓 子

【講義概要・学習目標】

民法の基本的な知識を履修し、民法の内、第一編「総則」を学ぶ。また、専門科目を学ぶにあたってのガイダンスを引き続き行う。

【講義計画】

ほとんど条文のとおりの順番で行う予定である。

【成績評価の方法】

出席とその態度、随時行う小テスト及び期末テストとする。

【教科書】

残念ながら、このシラバスを書いている段階で、適切な教科書が出ていない。教科書は追って指示することとする。
参考として別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅰ』（有斐閣）。
適宜六法を持参のこと。

【参考文献】

内田貴『民法Ⅰ』（東京大学出版会）

科 目 名			
民法Ⅱ [J]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	佐 藤 啓 子

【講義概要・学習目標】

民法の内、第二編「物権」を学ぶ。社会人としての知識がない学生にとってはわかりにくい分野だが、近代における取引の基礎になる部分なので心して学んでほしい。

【講義計画】

ほとんど教科書のとおりの順番で行う予定である。

【成績評価の方法】

出席とその態度、随時行う小テスト及び期末テストとする。

【教科書】

教科書

甲斐道太郎他編『新民法概説（1）』〔第四版〕（有斐閣）及び、別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅰ』（有斐閣）。適宜六法を持参のこと。

【参考文献】

内田貴『民法Ⅰ』及び『民法Ⅱ』（東京大学出版会）

科 目 名			
民法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	田 中 志津子

【講義概要・学習目標】

一定の財産上の行為を請求する権利である債権の意義、目的、内容について、具体的な事例を取り入れつつ講義を進める。

債権の効力や多数当事者の債権関係等、私人間の法律関係を学ぶ上で重要な事柄の理解を目指す。

【講義計画】

債権の意義・法的性質

債権の目的・種類

債権の効力序説・現実的履行の強制

債務不履行（1）履行遅滞

債務不履行（2）履行不能

債務不履行（3）不完全履行

債権者代位権

債権者取消権

連帯債務

保証債務

債権譲渡

債務引受

債権の消滅（1）弁済・代物弁済

債権の消滅（2）供託・相殺

債権の消滅（3）更改・免除・混同

【成績評価の方法】

試験（約80％）及び授業態度等（約20％）により総合的に評価する。

【教科書】

『民法概論3 債権総論（第2版）』川井健著（有斐閣、2005年12月発行、ISBN: 4-641-13439-1）

【参考文献】

・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No. 159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09））

・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No. 160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10））

＊理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。

詳細は授業にて説明する。

【備考】

・携帯電話の着信音は必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

・最新の六法を必ず持参すること。

科 目 名			
民法Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	田 中 志津子

【講義概要・学習目標】

典型契約を中心に、具体的事例を用いつつ、契約という法的関係を理解することを目標とする。
また、契約関係がない場合の法的処理についても学習する。

【講義計画】

契約総論
贈与
交換
売買
消費貸借
使用貸借
賃貸借
請負
委任
雇用
組合・終身定期金・和解
事務管理・準事務管理
不当利得
不法行為
製造物責任法
消費者契約法
特定商取引法

【成績評価の方法】

試験（約80％）及び授業態度等（約20％）により総合的に評価する。

【教科書】

『民法概論 4 債権各論』川井健著、（有斐閣、2006年 4 月発行、ISBN：4-641-13458-8）。

【参考文献】

- ・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09））
- ・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10））
- *理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。
詳細は授業にて説明する。

【備考】

- ・携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。
- ・最新の六法を必ず持参すること。

科 目 名			
民法Ⅴ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	永 水 裕 子

【講義概要・学習目標】

この講義では、家族関係をめぐる紛争が生じた場合に、解決の基準となる民法第4編「親族」、第5編「相続」および関連諸法（家事審判法等）を取り上げる。これら諸法のしくみを把握するだけでなく、現代的問題をも取り扱うことで、家族と社会と法とのかかわりを理解してもらうよう努める。また、判例紹介を常に行うことにより、裁判における条文解釈の展開を学ぶ。

【講義計画】

教科書に沿って進める予定である。

【成績評価の方法】

期末試験および出席による。

【教科書】

最新六法
遠藤浩他編『民法（8）親族[第4版増補補訂版]』（有斐閣双書）
遠藤浩他編『民法（9）相続[第4版増補補訂版]』（有斐閣双書）

【参考文献】

『家族法判例百選（第6版）』（有斐閣）

科 目 名			
民法A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	徳 野 剛

【講義概要・学習目標】

我々の日常生活に最も関係の深い法律は民法であり、私法の一般的通則法である。したがって、およそ法に関する知識・理解を求める人は、なによりもまず民法を十分に理解しておく必要がある。

民法の基礎知識を学習し、全体像を把握し、もって具体的事例や判例も紹介しながら理解できるよう努めたい。この講座は民法総則であるが、関連、必要に応じて、財産法（物権・債権）、家族法にも触れることもある。

【講義計画】

1. 民法序説
2. 人（自然人）
3. 法人
4. 物
5. 法律行為
6. 意思表示
7. 代理
8. 無効および取消
9. 条件・期限
10. 期間
11. 時効

【成績評価の方法】

出席及び期末試験、授業態度等によって、総合的に評価する。

【教科書】

伊藤進編「ホーンプック民法Ⅰ」民法総則 北樹出版
最新六法

【参考文献】

半田正夫著「やさしい民法総則」法学書院

科 目 名			
民法B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	徳 野 剛

【講義概要・学習目標】

物権は、財物に対する直接の支配権であり、ある物の利益が直接ある人に帰属する関係であるから、利益の帰属主体としての人、利益の担い手（客体）としての物、および人と物との間における利益の直接的帰属関係が物権の不可欠の要素となる。

そして、民法第二編において、あらかじめ所有権、占有権そして四種類の用益物権と担保物権を定めている。ここで、物権法定主義により、民法が、物権の自由な創設を制限している。こういったところを考慮に入れ、実例、判例なども採用して講義を進める。

【講義計画】

1. 物権の性質
2. 物権の変動
3. 不動産登記
4. 即時取得
5. 所有権
6. 占有権
7. 用益物権
8. 物的担保制度
9. 法定担保制度
10. 質権
11. 抵当権
12. 根抵当
13. 仮登記担保契約
14. 非典型担保

【成績評価の方法】

出席及び期末試験、授業態度等によって、総合的に評価する。

【教科書】

清水元、山野日章夫、良永和隆著「新・民法学2」成文堂

【参考文献】

伊藤進編「民法Ⅱ 物権法」北樹出版
最新六法

科 目 名			
民法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	永 水 裕 子

【講義概要・学習目標】

私たちの日常生活に深いかわりを持つ民法の基本原則、解釈方法等を、事例を通じて学んでいく。基礎的な法解釈技術を身につけることによって、以後の法律学学習へつなげたい。

【講義計画】

教科書に沿って進める予定である。

【成績評価の方法】

期末試験、小テスト、出席による。

【教科書】

最新六法
山野目章夫編『ブリッジブック先端民法入門（第2版）』（信山社、2006）

【参考文献】

講義の際に紹介する。

科 目 名			
文字・表記論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

言語は、音声媒体とした音声言語と、文字媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。

日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちば」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。

外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

【講義計画】

1. 日本語の表記法と基準

- 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）
- 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）
- 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）
- 4) 送り仮名の付け形
- 5) ローマ字の種類と表記法

2. 文字に関する知識

- 1) 漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）
- 2) 仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、秋学期1回）により評価する。詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（2）新・表記』（国際交流基金／凡人社）

【参考文献】

清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）

科 目 名			
野外レクリエーション実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	益 田 博

【講義概要・学習目標】

組織キャンプを題材として、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動指導に関する理論とプログラムを学ぶ。また、安全管理やプログラム運営の技術、グループワークの体験ができるよう**夏期休暇中のキャンプ指導実習**を行う。体験を通して主体的に学ぶことを重視する。

【講義計画】

- ☐ 野外レクリエーションと野外教育
- ☐ 組織キャンプの理解
- ☐ キャンプの対象とプログラム
- ☐ 福祉とレクリエーション
- ☐ キャンプと福祉対象者
- ☐ 個々のプログラムの運営と指導
- ☐ 救急法実習
- ☐ 野外活動とリスクマネジメント
- ☐ キャンプ実習
- ☐ 記録と評価

【成績評価の方法】

出席点と、小グループによる研究と発表、レポートなどにより評価します。

【教科書】

「camping for all」エルピス社

【参考文献】

授業中に紹介します。

科 目 名			
ヨーロッパ経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	棚 池 康 信

【講義概要・学習目標】

この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また2004年には、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高めている。しかしながら昨年は、EU基本法（憲法）の批准に失敗し、大きくつまづくことになった。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深い、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする。

【講義計画】

前期

市場統合とユーロの導入

1. 2005年のEU；一つの挫折
2. 経済統合論とEU
3. 市場統合と地域政策
4. 市場統合と経済通貨同盟
5. 92年市場統合
6. マーストリヒト条約とEU
7. ユーロの導入階
8. 経済通貨同盟の機能と運用

後期

経済通貨同盟のディメンション

1. 92年市場統合の意義
2. 単一欧州議定書
3. 統合の再出発と地域政策
4. 市場統合と域内貿易・直接投資
5. 経済通貨同盟段階の共同市場
6. 市場統合の現状
7. 市場統合とEUの経済ガバナンス
8. 2006年のEU

【成績評価の方法】

前期・後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

【教科書】

棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

【参考文献】

- 田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣
 島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
 清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
 内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房
 田中素香編『現代ヨーロッパ経済論』有斐閣
 田中友義編『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－西洋中世文学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

この授業は、ヨーロッパ中世の文学の概説にあてる。だがその前に、当時の書物とはどんなものだったかを、紙や筆記用具の歴史などとともに簡単に眺めておく。また古代ローマ文学の遺産として、ゴート族の支配下のボエティウスの『哲学の慰め』などにも触れて、古代との連続性をも考えたい。それから年代記や歴史の類いをいくつか眺めた後、『ローランの歌』に代表される叙事詩をはじめトロバドゥールの代表的叙情詩、修道院文学の代表『アベラールとエロイズ』、そして『バラ物語』、ファブリヨールから『神曲』、ペトラルカ、そしてイタリア・ノヴェッラやフランソワ・ヴィヨン、チョーサーなど、翻訳の抜粋、時には英訳などを用いて具体的に西洋中世の文学史をたどっていく。

【講義計画】

本の歴史と紙や筆記用具について3～4時間、神話や西欧の古い歴史、年代記2～3時間、叙事詩3～4時間、叙情詩2～3時間、修道院文学2～3時間 『バラ物語』等1～2時間、ファブリヨールとイタリア・ノヴェッラ3～4時間、ダンテ、ペトラルカ、ヴィヨン、チョーサーなど3～4時間

【成績評価の方法】

出席点と二度のレポートによる評価。今年はたびたびテキストを輪読してもらうので、出席点を重視したい。

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

筑摩書房：世界文学大系65 中世文学集、同66 中世文学集2

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－フランス文化の諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	アニー ヤマサキ

【講義概要・学習目標】

現在のフランス人のライフスタイルや思考傾向などについて色々なアスペクトを通して説明いたします。

【講義計画】

- *個人としてのフランス人
 - 外観意識
 - 礼儀作法
- *フランスの家族
 - 男女のあり方
 - 若者たち
 - 日常生活
- *フランスの社会
 - 社会構成
 - 社会生活
 - 価値観
- *仕事とレジャー
 - 就労人口
 - ひまな時間とヴァカンス

【成績評価の方法】

平常点。講義のまとめ方および感想の質的内容によって成績を評価します。火、金、それぞれの提出は、8回以上でなければなりません。鉛筆は禁止です。

【教科書】

講義ですので、テキストがありません。ノートを取り、各講義の最後の20分間でまとめを提出すること。

【参考文献】

- 「現代フランス情報辞典」(増補版) 草場安子 大修館 2001年
- 「フランス新・男と女」 ミュリエル・ジョリヴェ/鳥取絹子 訳 平凡社 2001年
- 「知っていそうで知らないフランス」 安達功 平凡社 2001年
- 「フランスの知恵と発想」 小林善彦 白水社 1992年
- 「はじめて学ぶフランス」 関谷和彦 細身和志 山上浩嗣 (共著) 関西学院出版会 2004年

科 目 名			
リハビリテーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	奥 田 邦 晴

【講義概要・学習目標】

障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションアプローチは非常に重要なプロセスであり、適切な時期に実施され、また、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健-医療-福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。

特に社会福祉士資格取得をめざしている人にとって、あるいは何らかのかたちで障害者とかかわる機会のある人は、このリハビリテーション論を通して、主として医学的な側面からであるが、障害についての理解を深めていただきたい。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。

【講義計画】

- 1－2. リハビリテーション総論
- 3－6. 障害と評価（脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他）
7. 各種専門職種
- 8－9. 疾患・病態からみたリハビリテーションの実際
- 10－11. 補装具
12. リハビリテーション工学
13. 障害者のスポーツ
14. 地域ケア
15. その他

【成績評価の方法】

筆記試験

【教科書】

特に定めない

【参考文献】

障害者の人権とリハビリテーション／高橋 流里子／中央法規

【備考】

- ・遅刻をしないこと。講義中は脱帽のこと。携帯メール等は禁止します。
- ・障害について真摯に学びたい人は受講して下さい。一緒に考えていきましょう。できるだけ前に座って下さい。

科 目 名			
流通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

流通とは、生産と消費という2つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。まずはじめに、世界経済のトレンドと流通や、流通論の範囲と対象などの概論を学んだ後、各論に入る。まず、教科書2を用いつつ、ブランド論・販売促進論を講義する。販売促進の1つであるテレビCMは、現代社会を映す鏡であることを踏まえない。また、フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論が興味深い。教科書1を用いつつ、音楽ビジネス・マーケティングの展開やギャンブル産業・マーケティングの新展開、特にカジノ開設の是非などに触れていきたい。ビデオやCD等を駆使しながら、わが国独特のこの状況も含めて、リアルタイムに動くもの取り入れていくつもりである。

【講義計画】

1. 世界経済のトレンドと流通
2. 流通論の範囲と対象
3. 地域振興と流通
4. ブランド論
5. 販売促進論
6. フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論
 - 1) 音楽ビジネス・マーケティングの展開
 - 2) ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）
7. 今後の流通の展望

——地域経済と世界経済——

【成績評価の方法】

定期試験の点数と、平常提出物の評価と、授業での参加と貢献、出席頻度などを総合的に評価して行なう。

【教科書】

進行に従い指示する。

【参考文献】

進行に従い指示する。

科 目 名			
流通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	隅 田 孝

【講義概要・学習目標】

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産―仲介―消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションや B to B、B to C、C to C 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといっていよう。

本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取り上げ、流通システムの進化について理解していく。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 流通システムの基本概念
3. 市場の概念
4. 製品・販売促進・価格・流通チャンネル
5. ブランド
6. 消費者ニーズ
7. 消費者行動
8. 消費文化
9. インターネット・マーケティング
10. ブランド・コミュニティ
11. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、理解度確認テスト、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

隅田孝著『若者市場論 ―若者消費者の購買意思決定と若者市場マーケティング―』、創成社、2006年。

【参考文献】

（社）日本マーケティング協会（編）『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文館、2001年。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

科 目 名			
臨床心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岡 井 哲 明

【講義概要・学習目標】

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（疾病を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問である「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。

現代は、複雑な社会であり、私たちを取り巻く環境の変化は変転目まぐるしく、私たちの心がそれに十分ついていけない状態にある。心の病はもはやボーダレスに社会に広がっているという感じさえある。ひとりひとりが心の置き場をどこに求めれば良いのかが分からなくなりつつある。

本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが、特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえる「精神分析療法」を中心に据えて展開する。

必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介し、人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れるつもりである。受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、今後の人生に役立てる契機となれば幸いである。

【講義計画】

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. 代表的な治療技法
 - ①精神分析療法
 - ②ユングの分析療法
 - ③行動療法
 - ④クライエント中心療法
 - ⑤ゲシュタルト療法
 - ⑥その他
4. 集団療法と家族療法
5. 精神医学的診断
6. アセスメント（心理査定）
7. 臨床心理学的地域援助

【成績評価の方法】

出席及びレポートの成績を最終的な評価とする。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で紹介する。

科 目 名			
倫理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

倫理学とは、一言で言えば、「人間はいかに生きるべきか」という問題を考える学問である。本講義では、古代ギリシアから現代に至るまでの主要な思想家の倫理思想を取り上げ、彼らの思想の基本的な立場と考え方の道筋を学ぶ。価値感が混迷する現代において、自分が何を大切に、どのような生き方をするかということ、各人が考えなければならない。この授業では、このような問題を自ら考えようとするときに、その手がかりとなるような思想や考え方を身につけることを目標とする。また授業では、現在、人々の関心を集めている生命倫理や環境倫理に関わる諸問題も適宜取り上げ、論じていくことにする。

【講義計画】

- 1、古代ギリシアの倫理思想
- 2、ヨーロッパ近代の倫理思想
- 3、現代の倫理思想
- 4、現代の倫理的諸問題

各テーマ毎に6回程度の講義をおこなう予定。

【成績評価の方法】

学年末テスト80点
授業中の小レポート20点

【教科書】

初回授業で指示する予定。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
歴史学－イタリア近現代史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

この授業では、17世紀に歴史のどつぼ（最低の状態）に陥っていたイタリアが、次第に力を取り戻し、リソルジメント時代にイタリア語圏をほぼ統一した後、二度の世界大戦やファシズムなどいろいろな曲折を経て今日に至った過程を講義する。あわせてそれ以前の栄光にも触れないわけにはいかないし、EUに加わった今日のイタリアが抱えるいろいろな問題にも触れておきたい。3年生以上で私のゼミを取っている人はぜひ取っていただきたい。

【講義計画】

全授業の回数を28回とすると、最初の3分の1を過去の2度の栄光、ローマとルネサンスの時代にあてる。続く3分の1をリソルジメントによるイタリア統一とその影響にあてる。残った時間で統一後のイタリア、世界に先駆けて現れたファシズムや世界大戦、そして王国から共和国に生まれ変わったイタリア、さらに第二次共和制とよばれる現在のイタリアが抱える諸問題にあてたい。

【成績評価の方法】

1. まず話を聞いてもらうために出席を重視する。
2. レポートで関心の深い問題を追及していただく。
3. 基本的な事件や人物や年号などをリストアップして提供し、その範囲で期末に試験をおこなう。
4. 以上の3点を総合して評価する。

【教科書】

米山が作製した『イタリア地方文化理解のための歴史年表』を適宜コピーして配布する。

【参考文献】

森田鉄郎・重岡保郎著『イタリア現代史』（山川出版社）
プロカッチ著、斉藤・豊下訳『イタリア人民の歴史』I・II（未来社）
藤澤道郎著『物語 イタリアの歴史』I・II（中公新書）

科 目 名			
歴史学－海のシルクロード史を読む			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

海のシルクロードの歴史をあとづける。

この講義は、海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることが、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことにも触れる。

地域としては東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場する以前、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。

いわゆるノート講義であるが、テキストに指定した資料集が必携である。

視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

【講義計画】

1. 序論＝海域アジア世界論－島の熱帯・モンスーン航海・海圏・海域社会
2. モンスーン航海以前－「漢とローマ」から扶南の世紀まで
3. モンスーン航海の確立とインド的国家の成立
4. マラッカ海峡交易帝国の隆盛－シュリーヴィジャヤとシャイレンドラ
5. 交易帝国の展開
6. 中国船の進出と南海交易の繁栄
7. 鄭和の大航海とムラカの世紀（15世紀）－交易とイスラム化

【成績評価の方法】

時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。

【教科書】

いわゆるノート講義であるが、次の資料集が必携である。

深見純生編『資料集 歴史学 海のシルクロード史を読む』（生協で販売）

【参考文献】

辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃園A292.09〕
 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃園A209〕
 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃園A209〕
 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃園A225.9〕

科 目 名			
歴史学－近代都市の歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

都市の歴史について、日本とヨーロッパの都市を中心に考えてみたい。時代から言えば、主に近代・現代である。

現在は、「都市の時代」といえる。多くの人々は、都市で生まれ、育ち、働き、やがて老人となる。都市という場は人々の基本的な生活の条件である。都市の変遷を通して、近代とは何か、現代とは何かを模索していきたい。

【講義計画】

以下の章構成で講義する（一章3～5時限）。

1. 都市とは何か？
2. 近代以前の都市
3. 近代都市の形成
4. 都市の近代
5. 近代都市計画の考え方
6. 近代都市から現代都市へ
7. 現代都市の諸問題

【成績評価の方法】

適宜に実施する小レポートと学期末試験によって評価する。

【教科書】

なし（レジュメ配布）

【参考文献】

必要に応じ指示する。

科 目 名			
歴史学－大日本帝国の興亡			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

本講は、わが国の20世紀前半の歩みをふり振り返り、新たな歴史認識を得ようとするものである。本講は、従来、わが国歴史学が立脚してきたマルクス主義唯物史観に拠らず、全く異なる歴史評価を行う。歴史を学ぶことは、単に過去の事物を取り上げて懐古趣味に耽ることではない。歴史を知ること、現在を知ることであり、将来を予測する手がかりを得ることでもある。このまま世の中が進んでいけばどのような結果になるのか、現在の私たちにはどのような選択肢があり、各選択肢からどのような結果が生まれると考えられるか、このような問題を複雑極まる人間社会の問題としてとらえようとすれば、その手がかりは過去の事例に求めるしかない。

本講の関心も単なる過去に対する回顧ではなく、現在社会の問題解決にある。歴史は繰り返すというが、20世紀前半のわが国の歴史を見れば、その感を益々強くせざるを得ない。そこにはバブル経済の発生とその崩壊、無原則な国際協調政策の弊害、グローバルスタンダードへの無思慮な追随、これらの経済・外交政策の失敗による社会の閉塞感、等々といった今日のわが国社会が直面する問題が、違った形で現れていることが分かる。従って、この時代に何が行われ、何が行われなかったかを考察することは、現在の問題をどう解決すればよいかを考える際に大変有益であろう。

さらに、20世紀前半のわが国の歴史を概観することで、現在のわが国が置かれた状況を歴史の流れの中で把握することができる。それは現在の私たちのできること、できないこと、すべきこと、すべきでないことをある意味で規定している。

本講を受講すれば、歴史とは単なる過去の出来事の回顧ではなく、まさに「過去に対する現在の政治である」ことが了解されよう。

本講は、高校で日本史を学習し、日本の近現代史についてある程度知識を持っている人を前提にしている。予備知識がないと理解するのが難しいのでご注意願いたい。

【講義計画】

導入 歴史の見方・考え方

1. 日露戦争 帝国主義国家への変貌
2. 第一次世界大戦 排日法——日米対立への道
3. ロシア革命とシベリア出兵 日本外交の迷走
4. 大正バブルの生成と崩壊 第二次産業革命 大衆消費時代の到来
5. 大正時代の政治 ワシントン体制の成立
6. 戦間期の世界経済と昭和金融恐慌
7. 高橋財政の登場とニューディール
8. テロとクーデターの時代 統帥権干犯と軍部の抬頭 民主主義の自壊
9. 大陸政策と満洲事変 ワシントン体制の崩壊プロセス
10. 日華事変と国家総動員体制 1940年体制の成立 アメリカの対日政策
11. 日本の安全保障政策 防共から三国同盟へ ノモンハン事件
12. 第二次大戦の勃発からパールハーバーへ 日米交渉決裂の過程
13. ローズベルトの戦争政策 無条件降伏の思想 対日占領政策の形成
14. 戦争の推移と日本の終戦工作 近衛上奏文
15. ポツダム宣言受諾 大戦末期の国際関係
16. 占領改革（1） 憲法、東京裁判
17. 占領改革（2） 経済改革、公職追放
18. 占領期の政治と経済
19. 占領政策の転換 賠償政策の変化 経済安定化へ
20. 冷戦の勃発と早期講和の挫折
21. 共産中国の成立と朝鮮戦争
22. 講和条約と安保条約 日本の再独立と吉田ドクトリン

【成績評価の方法】

期末テストの成績で評価を行う

【教科書】

特に用いない。必要な資料はプリントで配付する。

【参考文献】

高校の日本史教科書、日本史年表、各種日本史副教材

科 目 名			
歴史学－日本Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	生 瀬 克 己

【講義概要・学習目標】

徳川の270年余は、平和な時代であったと同時に、それなりに「近代化」のための条件は育っていた。しかし、現実の「近代化」の過程では、それらを生かしきれないままに「富国強兵」の道を歩む。そして、その道は「15年戦争」へと帰着してしまう。この「戦争」への反省のうえに立っての「平和憲法」と「経済立国」の時代が「戦後」ということになる。
徳川期から近現代にかけての歴史的な流れを大枠として理解してもらうのが「狙い」である。

【講義計画】

1. この講義の「狙い」と目標
2. 太平洋戦争の理解をめぐる日米の相違
3. 日本が「富国強兵」をかかげた理由と背景
4. もうひとつの「近代化」―徳川社会の可能性
5. まとめ

【成績評価の方法】

講義中のレポート（数回、30％）と期末テスト（70％）で評価する。

【教科書】

特には指定しない。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

科 目 名			
レクリエーションワーク			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	弘 中 陽 子

【講義概要・学習目標】

地域のすべての人がいきいきと豊かに生活を送る上で、「レクリエーション」は必要不可欠な大切な要素と言えます。レクリエーションは特別なものや活動ではなく、日常生活の中に存在する誰もが持つべき権利として存在するのです。

この授業では、一人ひとりの生活を「よりよく、豊かなもの」へ実現するためのレクリエーションの捉え方やレクリエーション活動の活用の方法、援助方法等を修得することを目標としています。

また、レクリエーション援助者として、様々な福祉サービス利用者に応じたレクリエーション活動の援助方法等も具体的事例を用いて、考えていきます。

【講義計画】

1. オリエンテーション（授業概要、進め方、評価方法等の説明）
2. レクリエーションの基礎的理解①
3. レクリエーションの基礎的理解②
4. 福祉領域におけるレクリエーションの考え方
5. 生活の中のレクリエーション
6. レクリエーション援助の3体系
7. 個別援助とグループを介した援助
8. レクリエーション援助プロセス
9. レクリエーション活動の援助計画を考える①
10. レクリエーション活動の援助計画を考える②
11. 考えたレクリエーション活動を実施する①
12. 考えたレクリエーション活動を実施する②
13. 考えたレクリエーション活動を実施する③
14. レクリエーション援助者について考える

【成績評価の方法】

この授業では、自分自身で「感じ、考える」ことを重要と考えています。

よって、一方的な講義形式ではなく、受講生一人ひとりが主役となるよう演習的形式で展開します。

様々なエッセンスを投げ掛けていきますので、自分自身の心でしっかり感じてください。

よりよい授業になるよう取り組んでいきましょう。

成績評価は、次の4点を総合的に判断したものとします。

- ①平常点（出席、主体的積極的な受講態度等）
- ②提出物（授業内の課題も含む）
- ③授業内の発表
- ④その他

【教科書】

長尾正子・石田易司著「長尾正子の介護レクリエーション」エルピス社、2005

【参考文献】

石田易司著「アイスブレイク」エルピス社、2001

科 目 名			
連結会計論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 理梨亜

【講義概要・学習目標】

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。本講義を受講するにあたって、簿記と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

【講義計画】

1. 証券取引法に基づく情報開示制度
2. 連結決算制度
3. 連結貸借対照表
4. 連結損益計算書
5. 連結剰余金計算書
6. 連結キャッシュ・フロー計算書
7. 連結財務諸表の注記事項
8. 連結の範囲と基準

【成績評価の方法】

出席、ミニテストや授業中の参加、期末テストを総合的に評価する

【教科書】

新日本監査法人（著）「図解早わかり 連結決算書入門」、BSIエデュケーション

練習問題も必要に応じてプリントして配布する

科 目 名			
労使関係論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	上 田 修

【講義概要・学習目標】

政・労・使をその制度主体とする労使関係制度は、小さな政府、労働組合組織率の長期的低下傾向、さらにアメリカにおけるニューエコノミーの成功に基礎づけられた株主権論の擡頭によって、その基盤を大きく揺るがせられようとしています。日本もその例外ではありません。労使関係は、雇用、賃金、処遇といった働く人びとの生活に密接に関係する事柄がどのような制度的枠組みにおいて決められるのか、またそのプロセスにおいて見られる各国の特徴とは何かといった問題に焦点をあてるものです。このことをとおして、人びとの暮らしのあり方を考えようとしします。例えば、現在、問題となっているフリーターの増加に象徴される若年層の雇用、中高年層のリストラ、主婦層を中心とするパートの増大といった各種の雇用問題は労使関係とどのような結びつき、関わりがあるのでしょうか。この授業では、労使関係という視点から雇用を中心とする労働世界の変容を取りあげ、考察します。

【講義計画】

- 1 労働世界の変容
雇用の多様化／フリーターとニート／女性労働／中高年の受難／外国人労働者問題
- 2 日本の労使関係と処遇システムの変遷
- 3 多様な資本主義・多様な労使関係
- 4 日本的労使関係とその変容
- 5 グローバル下の企業と労使関係の将来

【成績評価の方法】

学期末試験の成績で評価します。

【教科書】

使用しません。ただし、講義内容の概略（レジュメ）を配布します。

【参考文献】

講義概要（レジュメ）で指示します。

科 目 名			
老人福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法を含む）とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
- 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 老人のための地域及び住環境の歳暮と福祉用具について理解させる。
- 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。

【講義計画】

- 1 高齢社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリー）
 - 2) 福祉用具
- 9 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動尾をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【成績評価の方法】

授業時に実施する小テスト、レポートおよび試験による

【教科書】

高齢者福祉 第一法規

【参考文献】

老人福祉論 社会福祉学習双書、全国社会福祉協議会
国民の福祉の動向 厚生統計協会

科 目 名			
労働経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	吉 田 恵 子

【講義概要・学習目標】

指定したテキストをもとに講義を進める。
学習目標は労働経済の知識を理解すること、自分自身が「働く」ことを実感として捉えられるようになることである。

【講義計画】

イントロダクション
いろいろな働き方—サラリーマン、自営業者—
データで見る日本の労働市場
賃金と雇用の決まり方
なぜ人によって賃金は違うのか
「学び」と「訓練」
人が会社をやめるとき
若年をめぐる雇用
女性、高齢者をめぐる雇用
高失業の経済学
まとめ

【成績評価の方法】

小テスト（四回）と期末テスト

【教科書】

「労働経済学入門」太田 聡一（著）、橘木 俊詔（著） 有斐閣

【備考】

S S 生は対象外

科 目 名			
労働経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 西 祥 恵

【講義概要・学習目標】

労働は現在の大学生にとって身近なトピックである。というのも、入学当初よりアルバイトにいそしむ者もいれば、在学の後半期には就職活動に取り組む者もいるからである。さらに、大学卒業後、民間企業や行政に勤務する者が多数いるという現状を考えると、少なからぬ人が人生において一定の時間を職場での労働に費やすことになるといえよう。だとすれば、労働に関する基本的な事項を在学中に学んでおくことは意義深いことである。本講義の前半では、企業の規模や形態に注目する形で、大企業、公企業、中小企業における労使関係について学ぶ。そして、後半においては労働者の属性に注目する形で、性別や国籍の違いによって現時点では就業状況にどのような特徴がみられるのかという点について学ぶ。

【講義計画】

- 日本の生産主義と労働者 (1) 日本の生産主義
- 日本の生産主義と労働者 (2) 外圧と生産主義
- 日本の生産主義と労働者 (3) 規制緩和と生産主義
- 大企業における労働者 (1) 「日本的経営」と労働問題
- 大企業における労働者 (2) フレキシビリティと労働問題
- 大企業における労働者 (3) 「自発」調達のメカニズム
- 公企業における労使関係 (1) 公共部門の特徴
- 公企業における労使関係 (2) 国鉄民営化
- 公企業における労使関係 (3) 電電公社民営化
- 公企業における労使関係 (4) 郵政制度の改革
- 中小企業における労働者 (1) 中小企業の類型
- 中小企業における労働者 (2) 下請製造業
- 中小企業における労働者 (3) 新たな展開
- 女性労働者 (1) 労働力の女性化
- 女性労働者 (2) 積極的女子労働力政策
- 女性労働者 (3) 男女雇用機会均等法の制定と改正
- 女性労働者 (4) 労働と生活のバランス
- 外国人労働者 (1) 歴史
- 外国人労働者 (2) オールドカマーの労働問題
- 外国人労働者 (3) ニューカマーの労働問題
- 外国人労働者 (4) 日本における外国人政策
- 日本型福祉国家 (1) 企業中心社会と社会保障制度
- 日本型福祉国家 (2) 企業中心社会と家族政策
- 日本型福祉国家 (3) 日本型福祉国家の明暗

【成績評価の方法】

試験、講義中におこなう取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。

【教科書】

戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題<増補版>』ミネルヴァ書房、2001年（本体3500円＋税）。

【参考文献】

講義中に指示することがある。

【備考】

<02～07生>

社会学部のみ対象

S S生は学科選択科目、S W生は随意科目として履修

科 目 名			
労働法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	石 田 信 平

【講義概要・学習目標】

労働法とは「働き方」を規制する法律であり、労働基準法、労働組合法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法、パート労働法など、多様な法律を包含するものである。こうした「働き方」を規制する労働法は、現実社会の人の生活に大きな影響を及ぼしている。

本講義の目的は、多くの人が、企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働法を学ぶところにある。たとえば、賃金の引き下げ、解雇に対して、労働法はどのようなルールを構築するに至っているのか。仕事と家庭を両立するという理念に対して、法はどのような態度を示しているのか。さには、M&Aという企業組織再編において労働法がどのように関わってくるのか。日本的雇用慣行の変化や、少子高齢化への対応等の中で起こっている現実的な問題を取り上げて、講義を進めたい。また、以上のような課題に取り組むために、法律論だけではなく、企業内の人事制度の変貌等の具体的な社会的変化についても随時言及したい。

【講義計画】

- 労働法の役割と基本構造①
- 労働法の役割と基本構造②
- 解雇規制とその政策的課題
- 労働関係のアクター① 労働者と労働組合
- 労働関係のアクター② 使用者
- 採用、試用期間
- 労働組合への加入と団体交渉
- 労働条件の決定と変更—労働協約—
- 労働条件の決定と変更—就業規則—
- ワークライフバランス—労働時間、休日、休暇①—
- ワークライフバランス—労働時間、休日、休暇②—
- 懲戒処分
- 賃金制度の運用
- キャリアの展開①
- キャリアの展開②
- 差別—男女差別、正規・非正規労働との間の均衡—
- 労働者のプライバシー
- 労働者の健康
- セクシュアルハラスメント
- 内部告発
- 営業秘密の保護
- 企業組織再編
- 労働者派遣
- 労働契約の終了
- 企業年金
- 高齢者雇用の政策課題

【成績評価の方法】

原則として定期試験（春学期と秋学期）の成績と出席状況によって評価。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

土田道夫『労働法概説Ⅰ』（弘文堂・2004年）

土田道夫・豊川義明・和田肇『ウォッチング労働法』（有斐閣・2005年）

大内伸哉『労働法実務講義』（日本法令・2005年）

科 目 名			
ロシア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。

【講義計画】

教科書は全10課、2回の講義で1課のペースということになりますが、冒頭の「文字とその読み方」が1課分以上のじかんがかかります。教科書の「薄さ」を甘く見ずに着実に進めて行きましょう。

【成績評価の方法】

出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。

【教科書】

諫早勇一・服部文昭・大平陽一著『セメスターのロシア語』白水刊

【参考文献】

辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

科 目 名			
ロシア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	杉 野 ゆ り

【講義概要・学習目標】

ロシア語はロシア連邦に暮らす1億5千万人が使用し、CISの国々でも異なる民族間のコミュニケーションの道具として使用されています。ロシア連邦の極東部にあるウラジオストク市は大阪から飛行機で約2時間の近さです。しかしロシアは隣の国でありながら、日本人にはまだまだ知られていません。可能性に満ちた未知の国ロシアについて、その豊かな文化を知るべく勉強を始めませんか。チャレンジ精神のある学生を求めます。

【講義計画】

教科書は18課から成ります。1課につき1～2回の授業時数で進みます。教科書の至る所にユーモラスなイラストが書かれています。このイラストがロシア語を理解するための重要なヒントです。絵を見て楽しんでください。

【成績評価の方法】

毎回授業に出席して意欲的に勉強する態度を評価します。平常点（出席回数、小テスト）と春秋学期の定期試験で評価します。

【教科書】

中島由美・黒田龍之介・柳町裕子『ロシア語へのパスポート』（白水社）ISBN-560-01629-1

【参考文献】

露和辞典については授業で紹介します。

科 目 名			
ロシア語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の会話文を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習や書く練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、音を聞き、自分も精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。

【講義計画】

教科書は全部で20課あります。冒頭の「文字と発音」を1課分とすると21課です。1回の講義につき、1課仕上げると、春学期と秋学期で楽に1冊修了することになるはずです。

しかし、なかなか予定通りにいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、とばせるところはとばし、ジックリすべきところはユックリ時間をかけましょう。

【成績評価の方法】

必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

【教科書】

桑野 隆 著

『CDエクспレス ロシア語』白水社刊

【参考文献】

授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科 目 名			
ロシア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	杉 野 ゆ り

【講義概要・学習目標】

文法を補充して基礎学力の土台をしっかりと固めます。練習問題をこなし、さらに作文の力を養います。ロシアでの生活に困らないだけの会話力と作文力をつけるのが目的です。

【講義計画】

教科書は25課から成ります。各課に文法説明と練習問題及び作文があります。1回の授業で1－2課進みます。

【成績評価の方法】

欠かさず授業に出席して根気強く意欲的に勉強する態度を評価します。平常点（出席、小テスト）及び春秋学期の定期試験で評価します。

【教科書】

黒田龍之介『ロシア語文法への旅』（大学書林）

ISBN 4-475-03519-8

【参考文献】

露和辞典必携

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	岩 男 久仁子

【講義概要・学習目標】

文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

【講義計画】

<春学期>

自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800～1000字程度の文章を書く。テーマは授業時のはじめに伝える。

<秋学期>

一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

【成績評価の方法】

筆記による試験は行わない。出席重視。遅刻厳禁（欠席とみなす）。

文章の評価は個々の努力により評価する。

【教科書】

・必要時にプリントを配布。

【参考文献】

授業時に紹介する。

【備考】

毎回授業時に用意するもの

- ・国語辞典（電子辞書可、辞書代わりの携帯電話は不可）
- ・論述作文用の原稿用紙

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

『文章を書く』という作業に慣れていただくために、さまざまなテーマや課題、具体的な社会問題を与え、毎時、小論文を作成することを通して、基礎的な論文を完成できるまでの能力を身につけることを目指します。

【講義計画】

【春学期】

文章を書くことに抵抗なく取り組んでいける姿勢をつくるため、実際に文章を書く作業（800字～1000字程度を予定、授業内に提出厳守）を継続して行います。そのため、共通のテーマを挙げ、毎回それについて文章を書く訓練をします。同時に、論文の構成や情報収集／参考文献の検索方法等についても学習します。また、必要に応じて、毎時の課題論文を受講生間で共有し、良い点、悪い点を互いに指摘・批判しあう（批評／クリティーク）ワークショップも行います。

【秋学期】

受講生各個人が、それぞれ関心のあるトピック（課題）を選び、半年間をかけて本格的な論文作成に向けて、個別に指導しながら準備を進めていきます。扱う課題については夏期休暇中に考え、論文作成計画書（アウトライン）を作成し、秋学期最初の授業時に提出（締切厳守／延長は認めない）します。

※受講生人数により、若干、授業計画、及び進め方に変更が生じる場合があります。

【成績評価の方法】

1. 出席（遅刻は欠席扱い）
 2. 毎時の課題小論文
 3. 夏季、冬季休暇中の課題（図書要約）
 4. 最終課題、及び試験
 5. 授業への積極的参加
- 以上により、総合的に評価する。

注1）提出物の締切等が厳守できない人は評価できかねます。

注2）長期休暇中の課題とは、書籍（小説、絵本、詩集、エッセー、紀行文／旅行文以外の書籍）を読み、A4 1枚程度に本の内容を要約したものを休暇明けに提出してもらいます。

【教科書】

特になし。

テーマに沿ったレジュメを配布する。

（重要）

春学期の授業では実際に文章を書く作業が中心となります。使用する原稿用紙は大学生協で大学指定の原稿用紙（B5サイズ）を第一回目の授業までに必ず購入し、持参してください。

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

これまで作文を書き慣れていなかった人を対象として、いわば「大人らしい」作文が書けるようになることを目標とする。作文に上達するためには、とりえず実際に書いてみなければならぬし、そうしないと上手くはならない。この授業では、1テーマごとに、2コマの授業を使って、こちらが決めたテーマについて800字程度の作文を書いてもらう練習をくり返す。春学期は、原稿用紙に鉛筆で書き、秋学期は、パソコンを備えた部屋に写って、パソコンを使って書いてもらう予定。(参加希望者は、秋学期の始まりまでには、キーボードを打てるようになってほしい。)文章を書くことが苦手だと思っている人の積極的な参加を希望する。

【講義計画】

こちらが決めたテーマに関する作文を、2回の行で1作品のペースで書いてもらう予定。提出された作文は、評価をして返却する。

【成績評価の方法】

作文の提出回数による。80パーセント以上の提出は必須。最後まで真面目に出席している人なら、単位取得は困難ではない。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	小 柳 伸 顕

【講義概要・学習目標】

他人とのコミュニケーションにはいろいろな手段があります。身体表現、話すこと、絵をかくこと、音にすること等々を挙げることができます。なかでも文字(文章)を書くことは、欠かせない伝達手段です。文字(文章)を通して、自分の意志、意見を正確に相手に伝えるためには、日常的な訓練が必要です。授業では、その点を重視し、毎回、テーマを決め作品を書きます。作品は、添削し、意見を書き返却します。

【講義計画】

1. 自分を紹介する。他人を紹介する。
2. 資料(新聞記事、エッセー、小論文、映像など)についてその要点をまとめ、自分の意見を書く。
3. 出されたテーマについて他人と話し合い、その結果を文章にする。
4. 夏休み、冬休みには、課題(書物または小論文)に従い少し長めの文章を書く(休み前に提出)。
5. 1年間うけた授業についてまとめてみる。

※いずれもテーマ、キーワードをあげて文章をまとめることに努める。

【成績評価の方法】

出席と毎回の作品(含・冬夏の課題)の二つにより評価します。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて紹介。

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	三 浦 俊 介

【講義概要・学習目標】

三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正増補して、修了論文を書く。最終的には論文集として印刷製本する予定である。「論述作文」を学ぶことは、ゼミの論文執筆だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきっと役立つだろう。本学以外にも論文の書き方を指導している大学はあるが、本学のように少人数制で開講しているところはない。三浦は、この、他に例を見ない、すばらしい講座の恩恵を蒙らないのは損だと思う。できるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。継続的な受講が必須である。

【講義計画】

前後期の講義では以下の内容を講ずる予定である。

- 1、ガイダンス
- 2、レポート・論文の基本
- 3、論題を疑問文にすることの重要性
- 4、一人ディベート作文法
- 5、ワープロソフトの使用法
- 6、補注と参考文献
- 7、パラグラフ・ライティングの重要性
- 8、パラグラフ・ライティング作文法
- 9、レポート・論文の仕上げ

【成績評価の方法】

- ① 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないと不可。
- ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。
- ③ ほぼ毎回の提出物も参考にする。

【教科書】

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

木下は雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房
 小山田和久『論文の教室』（NHKブックス）NHK出版
 橋内 武『パラグラフ・ライティング入門』研究社
 その他、多数。随時紹介する。

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	村 田 佳 隆

【講義概要・学習目標】

論理的で明快な文章を書くための訓練をするのが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけてほしい。

【講義計画】

- ・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
- ・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
- ・最終的な「作品」を仕上げる。
- ・長期休暇には作文を課す。

【成績評価の方法】

出席と提出された作品による平常評価。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

学生として必要な、論理的な文章を書くための技術を養う。それは、みずからの主張を的確に相手に知ってもらうためには不可欠の武器である。同時に、口頭発表の技術も求められるので、あわせて体験することとする。

【講義計画】

春学期：四百字から八百字程度の様々な文章を作り、文を作ることが苦にならないようする。書かれた作品は、添削して返却する。作例をコピー（作者名は出さない）して配布し、相互批評する。春学期は原稿用紙に手書きで作文する。

秋学期：四千字程度のレポート作製に取り組む。任意のテーマを見つけて、内容を構想し、作成途上での口頭発表を経て完成に向かう。秋学期はワープロ書きにて取り組む。

【成績評価の方法】

- ①出席点：非常に重視する。原則として、遅刻は欠席として扱う。毎講時、ほとんど全ての時間を使って作文するから遅刻すると参加が困難だから。
- ②平常点：誠実かつ積極的に取り組んでいるか。提出物を期限内に出しているか？ 作文技術に向上が見られるか？ など。以上によって評価する。

【教科書】

必要に応じて、随時印刷物を配布する。

【参考文献】

授業時に紹介する。

【備考】

毎回必ず国語辞典を携行すること（電子辞書でも可）。

科 目 名			
論述作文〔4〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	森 田 登代子

【講義概要・学習目標】

一般的にみて論文を書くことは苦手という人が多い。書く機会がないというのが一番大きな理由であろう。第二に自分の言いたいことを的確に、そして手短かに相手に伝えるコミュニケーション力が訓練づけられていないこともあげられる。とくに現代の教育システムではその力は大きく欠如していることは否めない。文章力を高めるにはその最も基本になるコミュニケーション力を養うこと—自分の思っていること、意図すること、それを文字に移すこと、それらを訓練する能力を高めることしかないだろう。本講義ではそのノウハウを伝えることを主目的とする。まず正しい日本語、その意味を自分の力で理解すること、次にこれは学術論文でよく見られることだが、何が言いたいかわからない文章や美辞麗句でマスを増やすのではなく、自分の言いたいことは何かを的確に把握して、ストレートな文章を書くこと。そのための訓練をすることが肝要である。人間の身体でたとえるのなら、骨格にあたる部分、その部分を強くすれば骨がぼろぼろになる骨粗鬆（こつしょう）は避けられる。その骨も正しい位置にはめ込まなくてはならない。そうすれば肉付けにあたる段落ごとの要旨が的確に把握できる。最後に血管の流れがスムーズであれば健康な身体となる。同じように論文ならば文脈がスムーズに進めば、わかりやすい文章ができる。誰が読んでも自分の意図することが伝達できているような論文を作成したい。そのための基本的な訓練をおこなう。

【講義計画】

時事問題などの現代をとりまくテーマを中心に、随筆から専門の論文分野までを含むテーマをあてる。その問題、テーマ、論文の意図は何か、要旨を把握し、次に自分の言いたいこと、書きたいことをまとめ、それを決められた字数で書く練習をおこなう。文脈などにも考慮する。研究したい分野についても資料（史料）の振り方など、どのように引用すべきかなどを考えながら、限られた授業時間内で段落や文脈を的確に押さえた論文を書く練習をする。

【成績評価の方法】

- ①出席回数 ②提出された論文内容 ③授業中の態度

【教科書】

森田登代子『はじめてダンス！』（小学館）。このほかこちらで用意した学術論文・時事問題の記事など。

【参考文献】

齋藤孝『コミュニケーション力』（岩波新書）

科 目 名			
論理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	清 水 真 一

【講義概要・学習目標】

論理的に物事を考えることは何も学問の世界に限ったことではない。日常的にも、推理し、推論をおこなう場面が多々ある。何からの言明に対し、その裏付けからことの真偽を探ろうとすることもある。我々は、これらの営みをあらためて「論証」というかたちに置き直し、立言された言明と、その裏付けとなるはずの言明とを関連付けたい。つまりは、結論と前提とを関連付けたいのである。論理学は、結論を裏付けるためのいわば「道具」を提供してくれる。本講では、伝統的論理学と現代記号論理学を概観するなかで、日常的なことがらをも題材に含めつつ、その道具の使い方に習熟すべく多くの時間を費やすことになる。そのため定期的に小テストをおこなう。出席はとくに重視せざるを得ない。

【講義計画】

1. 伝統的論理学：その1
 - (ア) 定言命題
 - (イ) 定言三段論法
2. 伝統的論理学：その2
 - (ア) キャロルの方法
 - (イ) 名辞-関手論理学
3. 現代論理学：
 - (ア) 命題論理：基本的概念を学習し自然演繹のいくつかの方法を学ぶ。
 - (イ) 述語論理
 - ①基本的概念（同一性も含む）
 - ②妥当性の証明

【成績評価の方法】

出席、小テスト、試験に基づき、総合的に評価をする。

【教科書】

山川・清水共著『論理開眼』（世界思想社）

【参考文献】

授業中に随時、指示する。

ら

行

